VI章　石器資料分析

Ⅵ章　石器資料分析

以下に、Ⅰ～Ⅲ期の中九州地域各遺跡における石器組成分類に対する石材利用の状況と、遺跡内における各石材の搬入状況を示す。各遺跡の石器出土状況の詳細は表６～20に示す。石材利用グラフ(図 24・27・30)については遠距離石材、中距離石材、近距離石材に加え、蛇紋岩に特徴的な利用状況が見られることから各石材分類とは別に示す。安山岩Ｅについても、後期後半以降の二子山産打製石器流通と総体的に捉えるため、個別に示す。また、砥石については原石利用石器の一部としているが、これに対しても特徴的な利用状況が見られるため別に示す。

１．Ⅰ期

(１)白川流域

ⅰ)北久根山遺跡(表６)

①石材利用(図 24)

北久根山遺跡では、特殊石器・玉類は出土しない。剥片石器には、ほぼ９割に近い割合で遠距離石材が用いられ、その大部分を安山岩Ｆが占め、他は黒曜石Ａが１点出土するのみである。また、１点のみ中距離石材であるチャートが用いられる。磨製石器類にはすべて蛇紋岩が用いられている。打製石器には、ほぼ近距離石材である安山岩が用いられるが、１点のみ中距離石材である砂岩Ｄが用いられる。原石利用石器に用いられるのもほぼ近距離石材で、そのうち河原で採取が可能な安山岩Ｃが多用される。

②石材搬入状況(図 25)

遠距離石材は、黒曜石Ａ、安山岩Ｆともに剥片か製品の状態で出土している。このことから、遠距離石材は少なくとも石器製作段階のうち剥片の状態で搬入されており、遺跡内における剥片剥離作業は行われていなかったと考えられる。中距離石材は、礫、剥片、製品の状態で出土している。砂岩は礫の状態のものが多く、製品とはいっても利用されている器種は加工をほとんど必要としない石錘であることから、礫の状態のままの搬入が行われたと考えられる。しかし、砂岩Ｄについては打製石斧に用いられており、製品状態でのみ出土していることから、遺跡外で加工が行われて搬入されたと思われる。チャートは、製品と８cm 程度の荒割りをしたような礫が出土している。しかし、出土量も少なく剥片類も出土していないため、それほどの利用頻度はなく、剥片石器に用いる遠距離石材の補完的役割を果たしたものであったと考える方が自然である。また、片岩はそれほど出土しておらず製品としての出土もないことから、積極的に利用しようという意識はなかったものと思われる。近距離石材については、礫、剥片、製品が出土していることから、遺跡近辺の採取が可能な場所から礫を採取または簡単な剥片剥離を行い、遺跡内で製品加工を行ったものと考えられる。また、安山岩Ｃについては円礫であるため、遺跡近くの白川の河原で採取したものであろう。

ⅱ)六地蔵遺跡(表７)

①石材利用(図 24)

六地蔵遺跡では、特殊石器・玉、磨製石器は出土しない。剥片石器にはほぼ遠距離石材が用いられており、そのうち８割以上が安山岩Ｆである。中距離石材は用いられておらず、近距離石材も安山岩Ｄの加工剥片が１点出土するのみである。打製石器には、ほぼ近距離石材である安山岩が用いられ、１点のみ中距離石材である片岩Ａが出土している。原石利用石器に用いられているのは全て近距離石材であり、さらに遺跡に隣接して流れる白川の河原で採取可能な円礫の安山岩Ｃである。

本遺跡では、他石器と比較すると圧倒的に磨石類とその素材となる円礫、安山岩Ｃの出土量が多い。この現象については敦賀啓一郎が、六地蔵遺跡を含めた熊本県内の代表的な縄文時代後晩期遺跡の石器組成を概観した結果から、その特徴を示している。それによると、後期後葉の大規模集落遺跡では扁平打製石斧の増加が示されることから、六地蔵遺跡における磨石類の大量出土はそれ以前の堅果類を中心とした植物質食糧採集・加工活動が活発に行われていたものと推定している(敦賀 2005)。すなわち、植物採集に重点をおいていた遺跡において最も必要とされる石器を製作する際に用いられる石材が、隣接する河原で容易に獲得することができたために他地域の石材に頼ることがなかったのではないかと思われる。

②石材搬入状況(図 25)

遠距離石材は、黒曜石Ａ、安山岩Ｆともに剥片または製品の状態で出土している。このことから、遠距離石材は北久根山遺跡と同様に少なくとも石器製作段階のうち剥片の状態で搬入されており、遺跡内における剥片剥離作業は行われていなかったと考えられる。中距離石材は、剥片、未製品の状態で出土しており、遺跡内には剥片の状態で持ち込まれ加工が施されたものと考えられる。出土数が他石材よりも少量であることから、偶発的な入手である可能性も考えられる。また、１点ではあるが後期後半に広く分布するといわれる安山岩Ｅの剥片が出土している。近距離石材のうち安山岩Ｃについては上述した。他分類安山岩については、剥片または製品の状態で出土しており、小型剥片も確認できないことから、同一流域内の採取できる場所まで赴いて剥片剥離を行ったものと考えられる。

iii）千原台遺跡(表８)

①石材利用(図 24)

千原台遺跡では、玉・特殊石器は出土しない。剥片石器については、実見資料中には確認できなかったものの、報告書に剥片鏃の記載があったため少量は存在しているようである。しかし、弥生時代の遺構から出土していることと、報告自体にも縄文時代の石器がごく少数であったと記載されていることから時期判定は難しい。磨製石器には近距離石材の安山岩と蛇紋岩が用いられている。打製石器には、近距離石材の安山岩、中距離石材である片岩Ａ・Ｃ、蛇紋岩が用いられており、同一地域内と比較するとややバリエーションが見られる。加工礫以外の原石利用石器にはほぼ近距離石材であり円礫である安山岩Ｃが用いられているが、一部中距離石材である砂岩Ａ～Ｃが用いられており、こちらにも少々のバリエーションが見られる。

②石材搬入状況(図 25)

千原台遺跡において、遠距離石材は製品の状態で出土しているが、剥片、礫の出土もなく利用自体が少ない。中距離石材は、片岩と砂岩が出土している。片岩については、菊池川流域産のものと緑川流域産のものが出土しているが、どちらも製品または未製品状態での搬入である。すなわち、ある程度の加工を施した状態での搬入が考えられる。また、砂岩については、ほぼ原石利用石材に用いられていることから、礫状態での搬入であったと思われる。全体量と比較すると、各中距離石材の出土量はそれほど少なくもないのであるが、それほど積極的に用いられていたとも考えにくい。よって、必要に応じて各産地に赴き加工を施して持ち帰った可能性がある。近距離石材については、安山岩C以外の石材は製品、加工礫、剥片状態で出土しており、六地蔵遺跡と同様に小型剥片も確認できないことから、同一流域内の採取できる場所まで赴いて剥片剥離と加工を行って持ち帰ったものと考えられる。

(2)菊池川流域

i)木柑子下原遺跡(表9)

①石材利用(図24)

木柑子下原遺跡では、玉・特殊石器は出土しない。剥片石器は、一部の報告書記載資料が実見可能資料に含まれていなかったため、本来の出土量はもう少し多い。しかし、報告書を確認したところ、基本的な石材利用状況は実見資料にある程度反映されている。報告書から判断できる範囲では、実際には黒曜石製の石鏃と安山岩F製の石鏃、石匙がもう少し出土している。実見結果としては、約6割を遠距離石材が、約4割を近距離石材が占める。報告書掲載分を含めて考えると、遠距離石材がやや増えるであろう。遠距離石材は黒曜石A、安山岩Fがほぼ同量であり、近距離石材についてはすべて片岩Aである。

磨製石器には、近距離石材と安山岩E、中距離石材である砂岩D、蛇紋岩が用いられる。実見できなかった資料が数点存在するが、報告書内では石材に触れられておらず、詳細は不明である。近距離石材は片岩Aが1点である。

打製石斧には全て近距離石材が用いられ、その内約は安山岩と片岩Aで、片岩Aがやや多い。これも実見できなかった資料が含まれるが、報告書を確認したところほとんどが片岩Aのようである。原石利用石器には安山岩Cと砂岩Bも用いられているが、ほとんどが安山岩Cである。これらの石器にもやはり実見できなかった資料が含まれるが、報告書によると円礫安山岩製のものがあと数点出土しているようである。しかし、この未実見分を含めても、原石利用石器の出土量の割合は白川流域遺跡よりも少ない。これは、菊池川流域遺跡において白川流域遺跡よりも植物質食糧利用に重点がおかれていなかったことを示している。また、実見資料中には確認できなかったが、砂岩製の砥石が出土しており、報告書記載文によると「砂質の赤紫色の平石」を用いたものであるらしい。この記載から、砂岩Cが用いられている可能性が高い。

本遺跡においても、石材利用と器種組成の間には白川流域遺跡と同様の様相が見られるが、白川流域遺跡よりも片岩Aが用いられる割合が高いという差異が見られる。片岩Aの利用比率が高い理由として、遺跡の立地している地域が片岩Aの産出地帯である三郡変成岩帯内に含まれていることから、採取が容易であったことが挙げられる。片岩Aは層理に沿って板状に剥離がなされるので、扁平な石器を製作する場合に加工が容易で、原石も大

型のため打製石器類を製作するのに向いている。すなわち、同様の石器に利用されている安山岩よりも扱いやすい石材であったと考えられることから、産出地の付近では積極的な利用が行われていたと考えてよいであろう。また、白川流域遺跡より磨石類の出土が少なく、扁平な打製石器を製作するのに有利な石材を多く用いていることから、生業に差異があった可能性も考えられる。

②石材搬入状況(図 26)

遠距離石材は、黒曜石A、安山岩Fともに製品、剥片の状態で出土している。特に、製品に対して剥片の量がやや多いことから、剥片段階を主とした搬入があったものと考えられる。中距離石材に関しては、剥片状態での出土がほとんどであり、特にチャート製の剥片がまとまった量出土している。原石が利用されている砂岩に関しても、剥片出土が見られる。また、少量ではあるが安山岩Dを用いた剥片が出土している。これとは異なり、安山岩E、蛇紋岩、砂岩Dは製品のみの出土である。近距離石材は、製品あるいは剥片の状態で出土している。この中でも特に近隣に産地が存在する片岩Aについては、礫状態での搬入が見られないことから、剥片状態での搬入があったと考えられる。原産地が近距離の場所に立地しているわりには、原石の搬入が見られないことから、採取可能な場所まで赴き剥片剥離を行ったうえで持ち帰った可能性が高い。

iii)木柑子西原遺跡

①石材利用

木柑子西原遺跡からは、ほとんど石器が出土していない。実見できなかった資料も一部存在するが、それもごく少量であると思われる。統計上問題があると思われるため、木柑子遺跡群全体の一部として捉えるための参考資料としたい。

実見資料は、砂岩D、蛇紋岩製の磨製石斧各1点のみであった。未実見資料のうち、剥片石器については報告書に石鏃1点、使用剥片3点の記載があるが、石材についての記載や写真の掲載がないため詳細は不明である。打製石器は未実見の打製石斧が1点出土しているが、詳細な説明の記載はない。

②石材搬入状況

上述したように、木柑子西原遺跡では石器の出土がほとんどないため、参考資料とする。石材がはっきりと同定できたものは、砂岩Dと蛇紋岩のみである。両者とも製品状態での出土である。

iii)木柑子東山ノ上遺跡(表 10)

①石材利用(図 24)

木柑子東山ノ上遺跡では、木柑子遺跡群の各遺跡のうちで最も出土点数が多く、後期前半の対象遺跡の中でも最多である。他の2遺跡と同様に、報告書掲載資料のほとんどは実見できなかったので、補足しつつ出土状況を述べていきたい。

特殊石器・玉類は出土していない。剥片石器はほとんどに遠距離石材が用いられており、中距離石材である安山岩D、チャートが約1割用いられている。遠距離石材は、黒曜石A、

安山岩Ｆがほとんどを占め、そこに黒曜石Ｂが少量加わる。報告書掲載資料を足すと 70 点近く点数が増加するが、確認する限り石材利用状況は実見資料と大差ないようである。出土量の多い遠距離石材の中で、安山岩Ｆより黒曜石Ａの方がはるかに多く用いられている。遠距離石材の出土量が少ないうえに、黒曜石Ａよりも安山岩Ｆの方が多用される白川流域の北久根山遺跡、六地蔵遺跡とは様相がやや異なっている。それに加え、白川流域遺跡では用いられなかった黒曜石Ｂも用いられている。すなわち、木柑子東山ノ上遺跡は、当時の遺跡の中でも遠距離石材の獲得に有利な立場にあったと予測される。

磨製石器は、剥片石器と比較すると点数が少なく、磨製石斧３点、その他磨製石器１点である。報告書掲載分を加えても磨製石斧が３点増加するのみである。石材は蛇紋岩が３点、片岩Ａが１点で、報告書掲載分の蛇紋岩２点と砂岩Ｄと思われるもの１点が加わる。打製石器も量が少ないが、用いられている石材は安山岩Ｂ、片岩Ａの近距離石材と安山岩Ｅであり、片岩Ａが用いられる割合が高い。報告書掲載分を加えると 10 点ほど増加するが、用いられている石材はほとんどが片岩Ａのようである。木柑子下原遺跡と比較すると全体的な利用割合こそ少ないが、同様に近辺に産地が存在する石材を積極的に利用していることが分かる。

原石利用石材は 28 点出土しており、ほぼ安山岩Ｃを用いた磨石類である。報告書掲載分を含めると８点ほど増加するが、これらも全て安山岩Ｃ製である。全体的な出土量から考えても、六地蔵遺跡における磨石類の利用は非常に多く、植物質食料利用に依存的であったという特異性が際立つ。また、本遺跡では砥石が出土しており、その石材には砂岩Ｃが用いられている。詳細は後述するが、各時期を通して砥石に用いられる石材は砂岩が圧倒的に多く、その中でも砂岩Ｃを用いる場合が多い。石材に対して、利用を見通した目的的な獲得を行っていたことを示す例として興味深い。

木柑子東山ノ上遺跡においても、片岩Ａについては在地産の石材であることから、他流域遺跡よりも積極的な利用が行われている。木柑子下原遺跡との石材利用に対する共通点が認められることから、総じて木柑子遺跡群全体において同様の石材利用を行っていたものと考えられる。しかし、黒曜石Ａの利用については木柑子東山ノ上遺跡の方が圧倒的に多く、木柑子遺跡群を１つの集落遺跡であったと捉えた場合、石材の種類によって扱う場所が決まっていた可能性もある。

②石材搬入状況(図 26)

遠距離石材は、黒曜石Ａ・Ｂ、安山岩Ｆにおいて多くが製品、剥片の状態で出土している。石核量に着目すると、黒曜石Ｂ、安山岩Ｆではほとんど出土していない。しかし、黒曜石Ａは石核量が剥片量の約４分の１であり、石核形態での搬入が行われていたと考えられる。しかし、黒曜石Ａの石核の多くは、風化した２～３cm の丸みを帯びた小礫に対し１度のみ剥離を行ったようなものであり、剥片剥離を目的とした搬入が存在したとは考えにくい。ただ、他遺跡と比較してもその出土量がきわめて多いことから、本遺跡に限って黒曜石Ａが多く搬入されていることは確かであろう。また、風化した石核や小礫はⅡ期以降、特にⅢ期の遺跡においても多量に出土していることがあり、着目すべき資料である[1]。

中距離石材についてはやや積極的な利用が見られるが、ほとんどが剥片あるいは製品の状態で出土しており、その状態での搬入が多く行われていたようである。しかし、石核や

礫も少量出土しており、単純に剥片や製品のみの搬入を行っていたわけではなさそうである。近距離石材については、製品、剥片、少量の礫が出土している。礫の多くは安山岩Cであるため、原石利用を目的にそのままの状態で持ち込んだものであろう。その他の石材の状況を見てみると、剥片状態での搬入が多く、遺跡近辺の採取場所で剥片剥離を行ったうえで遺跡に持ち込んだものと考えられる。また、木柑子下原遺跡と同様に、白川流域遺跡よりも利用が多く近距離に産出する片岩Aは、製品または剥片の状態で搬入されている。すなわち、やはり近隣の石材採取地まで赴き、剥片剥離を行ったものと思われる。

蛇紋岩については、ほぼすべて製品状態で出土している。剥片が２点出土しているが、１～２cm 程度の小剥片で石器として用いるものというよりは、磨製石斧の破損時の破片と考えた方がむしろ自然である。安山岩Eについては、製品もしくは剥片状態での出土である。この石材については、二子山産打製石器の流通としてまとめて考察を行いたい。

iv）城・下原遺跡(表 11)

①石材利用(図 24)

城・下原遺跡では、特殊石器・玉は出土しない。剥片石器には、遠距離石材、近距離石材が用いられ、その７割以上を遠距離石材が占める。遠距離石材として黒曜石A、安山岩Fが用いられるが、その多くは黒曜石Aである。近距離石材は、すべて片岩Aが用いられており、これは木柑子遺跡群と同様に産地に近い立地のため積極的な利用が行われたものと考えられる。磨製石器の出土量は１点のみであるが、中距離石材である片岩Cが用いられている。打製石器には蛇紋岩が１点用いられている以外はすべて片岩Aが用いられており、加工しやすい在地石材を多用していたようである。原石利用石器には、ほとんどが近距離石材である安山岩Cが用いられており、砥石のみ砂岩Bが用いられている。

また、本遺跡においては三郡帯にて採取が可能である変はんれい岩の礫が４点出土している。この石材は、主に鮮やかな緑色を呈しており、一見して緑色の蛇紋岩と非常によく似た印象を受ける(図 23)。蛇紋岩との肉眼による判別は白色の長石が含まれるかどうかであるが、その点を意識的に観察しなければ混同させてしまう恐れがある。このような石材は、Ⅲ期に至るまで他流域遺跡では出土しておらず、菊池川流域遺跡においても木柑子遺跡や三万田遺跡では出土せず、一部の遺跡でのみ出土する特徴的なものである。

②石材搬入状況(図 26)

遠距離石材は安山岩F、黒曜石Aが出土しているが、安山岩Fは製品、剥片のみの出土であり製品も加工剥片であるため、剥片状態での搬入が考えられる。一方、黒曜石Aは製品、剥片に加え少量ではあるが石核や礫が出土している。ただ、これらの石核類は１～２cm ほどの大きさしかなく、剥片には同サイズのものがあるものの製品の中には５cm 以上の大きさのものも存在することから、製品に関しては素材剥片あるいは完成品の搬入があったと考えた方がよさそうである。

中距離石材は、原石利用の製品、少量の剥片以外はほぼ礫の状態で出土しており、礫の状態での搬入が考えられるが、その利用はあまり行われなかったものと思われる。そのような中で注目すべきは、砥石に砂岩Bのみが目的的に用いられている点である。

近距離石材は、安山岩類については中距離石材同様に多くが礫状態の出土であることか

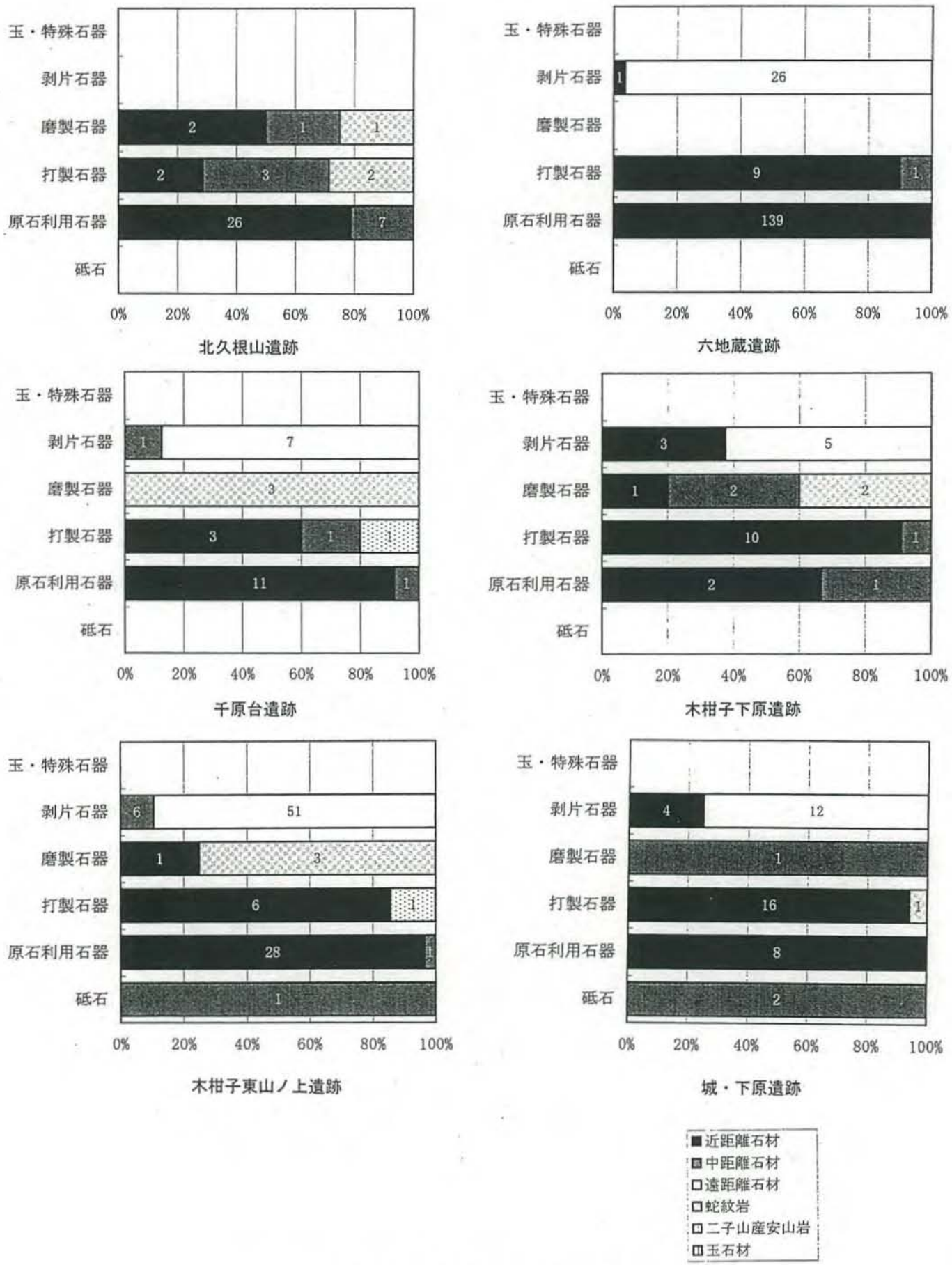


図24　各遺跡における石材利用（Ⅰ期）

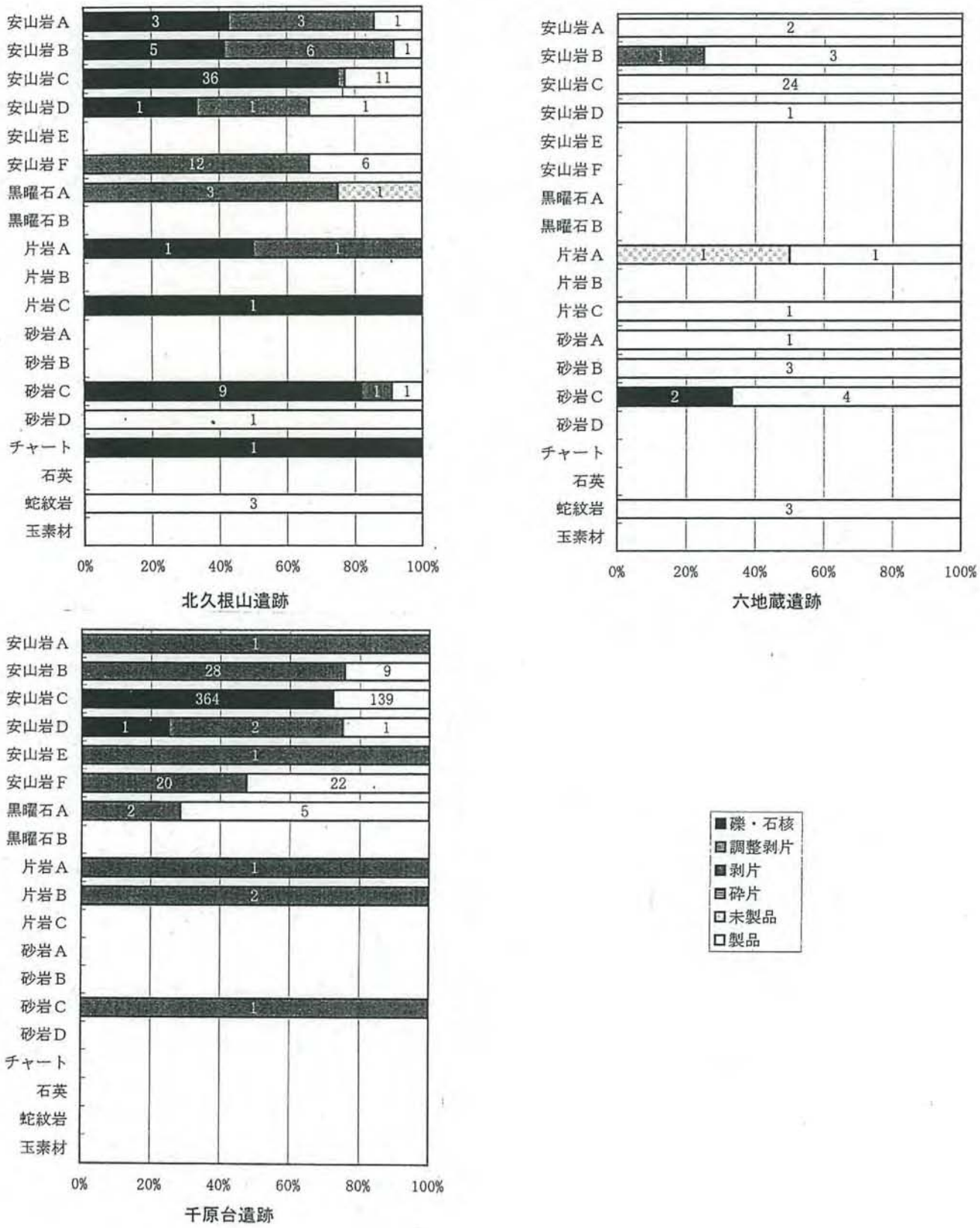


図25　各遺跡における石材搬入状況（Ⅰ期：白川流域）

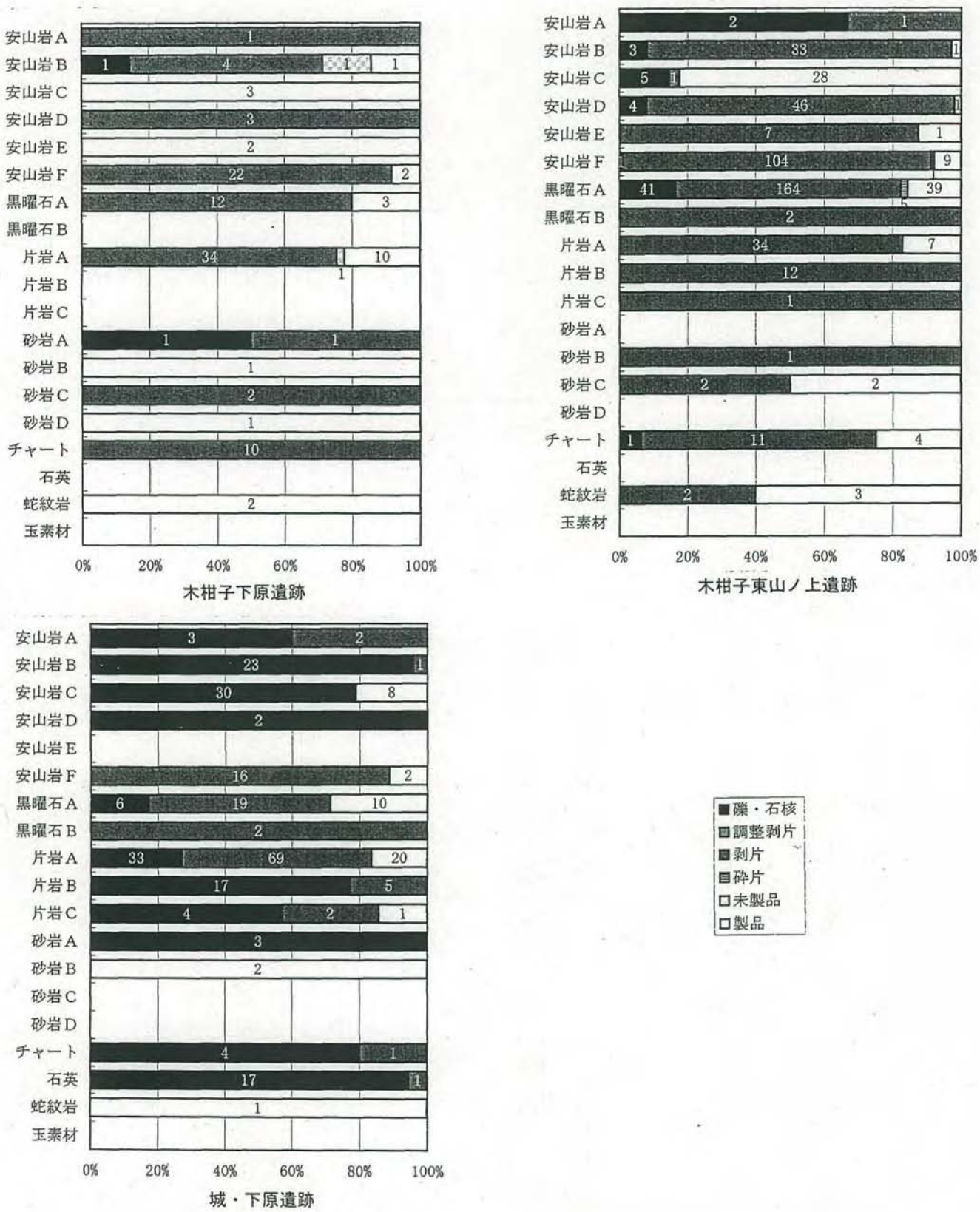


図26　各遺跡における石材搬入状況（Ⅰ期：菊池川流域）

ら、礫状態での搬入を行っていたようであるが、これらの石材を用いた製品は全く出土していない。反対に、片岩Ａは全出土石器中においても圧倒的な出土量であり、多くの礫、剥片、製品が出土している。特に礫の出土量は、遺跡内のみならず同時期の遺跡と比較しても最多である。他遺跡においては、菊池川流域遺跡においても礫の出土は全くなく、非常に特徴的な出土状況である。このような状況を示す本遺跡は遺跡分類上Ｂ類に相当し、居住遺跡ではなく、それ以外の作業場等としての役割が大きかったと思われる。すなわち、本遺跡では片岩Ａの獲得と剥片剥離作業を中心とした石器製作のための作業場としての役割を担っていたのではないかと考えられる。しかしながら、一般的な石器製作址や原産地遺跡と比較すると、非常に小規模なうえに他の産地石材が多種出土し、製品も１割程度は出土している。ただし、他石材の礫は大型のものは持ち込まれていない。これらのことから、特定石材を流通させるための専門の作業場というわけではなく、どちらかというと片岩Ａを利用しようとする人々がその時々の必要量を獲得するために利用し、作業のついでに他の石材も持ち込むような性格の作業場と考えた方が良いかもしれない。

（３）石材利用と流通の様相

Ｉ期の各遺跡においては、概ね特定石器に特定石材が用いられる傾向がある。剥片石器には遠距離石材を主に用い、まれに中距離石材であるチャートが用いられる。磨製石器には、蛇紋岩と中距離石材が主に用いられ、まれに近距離石材が用いられることもある。特に蛇紋岩については、ほぼ磨製石斧に用いられるうえに各遺跡に対し同様に製品でのみ搬入されており、その特殊性が際立っている。打製石器には主に近距離石材が用いられ、原石利用石器には近距離石材の中でも円礫である安山岩Ｃがほぼ用いられる。また、砥石に対する砂岩利用の意識は高く、砥石自体の出土量は少ないながらもその利用石材はすべて砂岩である。これらは、石器器種の機能と各石材の性質を踏まえて考えると当然の結果ではある。しかし、遠距離石材と製品状態で搬入される蛇紋岩等の石材以外の石材利用とその搬入状況については、遺跡立地と在地産石材産地の位置関係に左右されており、各遺跡において統一性が認められない。すなわち、財のレベルによって石材が使い分けられるわけではなく、その入手も個々の遺跡によって個別に行われているものと考えられる。

ｉ）片岩Ａ

各遺跡によって個々に石材採取と利用を行っていたことを示す例として挙げられる特徴的な現象が、菊池川流域遺跡における片岩Ａに対する利用である。片岩Ａは菊池川流域遺跡では近距離石材となるが、それらの遺跡では剥片石器から打製石器まで財のレベルに関係なく幅広く用いられる。これは、片岩Ａの薄く剥離しやすいという石質によるところが大きく、その性質を目的に多様に用いられているものと思われる。また、菊池川流域の城・下原遺跡は、石材原産地付近に立地しており、片岩Ａの礫が多く出土する。これは、白川流域遺跡はもちろん、同じく菊池川流域に立地している木柑子遺跡群でも見られない現象である。城・下原遺跡では住居址が出土していないことから、居住を主目的としたＡ類遺跡ではなく、作業遺跡であるＢ類遺跡にあたる。すなわち、Ｂ類遺跡では片岩Ａの原石採取が行われており、その剥片の量から見ても剥片剥離作業が行われていたと考えられ、居住を示すＡ類遺跡では消費のみが行われており、作業地と消費地の機能分化が生じている。

しかし一方で、そのような利用のしやすさにもかかわらず、片岩Ａは菊池川流域遺跡以外ではそれほど積極的に利用されていない。菊池川流域遺跡において片岩Ａが用いられる打製石斧の製作には、白川流域遺跡では在地産の安山岩が用いられることが多い。すなわち、Ｉ期においては利便性の高い石材を効率的に利用しようとすることはなく、各地域で得られる石材でまかなっており、相対的に遺跡間における密接な関わりは存在しなかったものと思われる。このことから、中九州地域において産出される他石材についても遺跡間での交換等による入手は行われず、近距離石材と同様に必要に応じて直接的な入手を行っていたものと考えられる。

ⅱ）黒曜石Ａ

各遺跡によって個々に必要に応じた石材採取と利用が行われているが、各遺跡内においては広域流通石材である黒曜石Ａ、安山岩Ｆが出土している。黒曜石Ａについて見れば、白川流域遺跡においては製品の利用のみが見られるものの、菊池川流域の木柑子東山ノ上遺跡においては剥片の大量出土とともに石核の出土も見られる。前章で述べた鈴桶技法の石材流通を例にすると、原産地から離れた地域でこのような大量保有遺跡が存在する場合、そこを中心地として再分配が行われていたと考えられる。すなわち、木柑子東山ノ上遺跡がそのような中心地遺跡であったと推測されるが、同様に白川および井芹川に近い立地である太郎迫遺跡においても、鈴桶技法による石器群の他に多量の黒曜石Ａを用いた石器が出土することを確認している。このことから、黒曜石Ａに対しては河川ごとあるいは一定の範囲にこのような中心地遺跡が存在しており、周辺遺跡に対し剥片を搬出するような流通がそれぞれにあったとも考えられる。また、中心地遺跡と考えられる木柑子東山ノ上遺跡は、遺跡群全体でもＡ２類遺跡にしかなりえず、Ａ１遺跡である六地蔵遺跡においては石核や剥片の大量出土が見られない。このことから、中心地遺跡はＡ１類遺跡のように大規模集落である必要性はなく、また片岩ＡにおけるＢ類遺跡のように機能分化が生じているわけでもない。

以上のように、Ｉ期には財の広域流通に伴う必要最低限の遺跡間の関わりはあっても、より狭い範囲の地域的な関係性はあまり強いものではなく、各遺跡は個々に独立したものであったと考えられる。また遺跡類型とその石材利用からは、居住地と作業地の区別はされていたものの、集落遺跡の規模によって機能が定められるような流通は行われていなかったと考えられる。

２．Ⅱ期

（１）白川流域

ⅰ）上南部遺跡(表 12)

①石材利用(図 27)

上南部遺跡では、全時期を通して最も多くの石器が出土しており、石材、器種ともに豊富な遺跡である。Ａ１類の大規模集落遺跡に相当し、本遺跡における石材利用の様相がⅡ期に増加するこのタイプの遺跡の特徴として示される。

本遺跡では、前時期まで認められなかった特殊石器・玉が出土する。特殊石器は、異形石器というべき用途不明のもので、遠距離石材である安山岩Ｆを用いて製作されている。

玉に関しては製品、未製品、剥片、礫が出土しており、用いられている石材は分類で玉石材とした「含クロム白雲母岩」である。剥片石器は、８割以上が遠距離石材を用いて製作されており、特に加工・使用剥片以外の剥片石器はほぼ遠距離石材が用いられたものである。遠距離石材は安山岩Ｆ、黒曜石Ａ・Ｂが用いられるが、最も多く用いられるのは安山岩Ｆであり、次いで黒曜石Ａ、黒曜石Ｂの順となっている。しかし、黒曜石Ｂは他２石材と比べるとそれほど用いられない。

磨製石器には様々な石材が用いられ、石材産地の距離に関わらず利用されているようである。しかし、その中でも剥片石器に用いられる遠距離石材が用いられることはなく、また総体的な他分類石材の利用割合と単独石材として分類している蛇紋岩がほぼ同様の割合で用いられている。蛇紋岩の利用は磨製石器のみに集中しており、非常に目的的な石材利用が行われている。また、蛇紋岩と比較すると少ないながらも、砂岩Ｄの磨製石斧を中心とした磨製石器への利用も特徴的である。

打製石器には５割以上の割合で近距離石材が用いられ、それとともに片岩Ａを中心とした中距離石材と安山岩Ｅが用いられる。多くは近距離石材でまかなわれているが、片岩Ａと安山岩Ｅにおける特定石材の多用は特徴的である。特に、打製石斧についてはその傾向が顕著であり、前時期には見られなかった他流域産石材を積極的かつ目的的に用いる行為が見られるようになっている。安山岩Ｅについても前時期より利用が極端に増加しており、二子山の打製石器製作址との関連がうかがえる。

原石利用石器については、ほぼ近距離石材である安山岩Ｃが用いられており、わずかに中距離石材である砂岩が用いられる。玉素材・未製品が出土している関係からか砥石の出土が多く、この砥石に関してはほぼ中距離石材である砂岩が用いられるという特徴が見られる。中でも砂岩Ｃの利用が多く、この石材を特に目的的に用いていたものと思われる。すなわち、砂岩は砥石に用いるために入手され、その中から砥石に用いられなかったわずかな余剰の石材を磨石等の他石器に転用していた可能性が高い。

②石材搬入状況(図 28)

遠距離石材は製品に多く用いられているが、各石材全体に占める割合は剥片が極端に多く、石核も多く出土している。製品に対する剥片・石核の割合をそれぞれに比較してみると、黒曜石Ａ・Ｂよりも安山岩Ｆは製品の割合が高く、反対に石核においては非常に低い割合を示す。すなわち、黒曜石Ａ・Ｂは石核の状態で搬入が行われ、遺跡内において剥片剥離が行われたが、安山岩Ｆについてはほぼ剥片の状態での搬入であったものと考えられる。これは、黒曜石Ａ・Ｂにおいては少量ではあるが剥片剥離時の調整剥片が出土していること、また黒曜石Ａについては全く手が加えられていないほぼ全面が自然面に覆われた原石が出土していることからも明らかである。しかし、黒曜石Ｂについては黒曜石Ａと比較すると全体的な出土量が少なく、剥片剥離の規模も小さいものであったと思われる。また、各石材ともに製品に対する剥片の割合が非常に高く、自家消費をはるかに超えるほどの量が出土している。このことから、それらの剥片が他遺跡への搬出品であったと考えられ、その場合上南部遺跡は遠距離石材が流通するための拠点となるような遺跡、すなわち中心地遺跡であった可能性が高い。黒曜石Ａについては剥片生産遺跡としての役割を担っていたとも考えられる。

中距離石材については、片岩と砂岩でその搬入形態が異なる。片岩、特に片岩Ａは多く製品に用いられているが、その出土状況はほぼ製品と剥片である。礫の出土はあるものの、その多くは破片といえるような小型のものであり、遺跡内において剥片剥離が行われたとは考えられない。また、同様にチャートもほぼ剥片が出土しており、石核のような礫が出土しているものの１点のみであることから剥片状態での搬入であると思われる。一方砂岩に関しては、出土の多くが礫の状態であり、片岩とは対照的である。すなわち、剥片を素材とする石器石材に対しては剥片の状態で、礫を素材とする石器石材に対しては礫の状態で搬入を行っており、利用目的に沿った効率的な搬入を行っているのである。これと対照的な搬入を行っているのが、近距離石材である。近距離石材は、安山岩Ｃに対してその利用石器の形態から礫状態での搬入が多いことは当然であるが、剥片を素材として用いる安山岩Ａ・Ｂ・Ｄにおいては礫と剥片の出土があり、遺跡内において礫からの加工を行っていた可能性が高い。すなわち、他地域の石材を積極的に利用するにあたって、中距離石材については効率的な入手を行っているが、遺跡に近い場所で入手が可能である石材の入手についてはそれほど気が使われていなかったと考えられる。

蛇紋岩については、上述したように磨製石器専用石材であったと考えてよいであろうが、その出土状況は主に製品である。少量の剥片と礫が出土しているが、石器製作に関するようなものではなく、どちらかというと製品から剥離した破片のようなものである。このことから、蛇紋岩は磨製石器の完成品の形態で持ち込まれていたことが推測される。また、同様の状況が砂岩Ｄにも認められることから、この石材も製品状態での搬入があった可能性が高い。安山岩Ｅの石材利用は、打製石斧のみに偏っているわけではないものの、打製石斧の出土が極端に多い。また、その出土はほぼ製品の状態であることから、製品が搬入されていた可能性が高く、二子山打製石器製作址との関連があったと考えてよい。

また、本遺跡からは緑色の玉石材が用いられた玉とその未製品、素材となった剥片、原石が出土している。さらに、擦切技法によって素材剥片を切り出した痕跡を残す資料も出土している(図 20)ことから、確実に原石段階からの玉製作が行われていたと判断できる。分析対象とした遺跡の中で玉やその素材剥片が出土する遺跡は他にも存在するものの、このように原石から玉製作を行った痕跡が認められる遺跡は存在せず、他石材の出土量や黒曜石Ａの剥片生産とともに特殊性が示されている。同様に玉石材の原石が出土する遺跡として、菊池郡大津町に立地するワクド石遺跡が挙げられる。ワクド石遺跡はＡ１類の大規模集落遺跡であり、多量の黒曜石Ａの石核出土も見られ、石材利用とその搬入状況が上南部遺跡と非常に似通っていることから、同様の性格を有した遺跡であったと考えられる。

ⅱ)乾原遺跡(表 13)

①石材利用(図 27)

乾原遺跡においては、全資料を実見することができなかったため資料数は少なく、また偏っている。よって、ここでも報告書掲載資料を参考に分析を行っていきたい。

実見資料中に特殊石器・玉類は見られなかったが、報告書によると「ヒスイ」製の管玉１点、穿孔途中の未製品１点、円盤状の小型石製品が１点出土しているようである。このヒスイとされる石材が、含クロム白雲母岩であるかは不明であるが、緑色を呈しているためその可能性が残る。剥片石器は、実見資料中には近距離石材を用いた加工剥片、使用剥

片のみが見られたが、報告書によると石鏃 14 点、石匙１点、加工・使用剥片 31 点、その他１点の出土があるようである。これらに用いられている石材は、確認しうる限り黒曜石Ａと安山岩Ｆがほとんどのようである。

磨製石器には片岩Ｄと蛇紋岩が用いられる。また、実見資料以外にも磨製石斧 18 点、その他磨製石器５点が出土している。この中で、片岩Ａ２点、蛇紋岩２点の利用が確認できたことから、特定石材利用の傾向は上南部遺跡とほぼ同様であると考えられる。打製石器については、近距離石材と中距離石材である片岩Ａが用いられる。報告書によると、打製石斧 21 点、円盤状石器４点の出土があるようだが、確認できた利用石材は実見資料と同様の傾向であった。原石利用石器にはほぼ近距離石材である安山岩Ｃが用いられ、わずかに砂岩Ｂ・Ｃが用いられる。また砥石が出土しており、それに用いられるのは砂岩Ｃと安山岩Ｃである。報告書によると、磨石類 99 点、石皿類９点、石錘１点、砥石２点の出土があるようであるが、確認できる範囲では安山岩Ｃと砂岩が用いられており、原石利用石器全体において同様の傾向である。

上南部遺跡のような多様な石材利用はないものの、同様の石材利用傾向である。しかし、上南部遺跡とは異なり、安山岩Ｅの利用はほとんどなく、二子山産打製石斧の流通には関わっていないものと思われる。

②石材搬入状況(図 28)

遠距離石材は、多くが製品状態での出土であり、礫・石核、剥片の出土はごくわずかである。黒曜石Ａについては、石核の出土はあるもののその大きさは小型で出土量も少ない。よって、積極的に剥片剥離作業が行われていないものと思われる。すなわち、遠距離石材は主に製品状態での搬入が考えられる。中距離石材は、全体的に利用量が少ないうえに礫、剥片の出土があまりないことから、遠距離石材と同じく製品状態での搬入が考えられる。反対に、近距離石材は礫、剥片の出土が他石材と比較して多く、礫状態で石材が搬入され多少なりとも石器製作が行われていた可能性が高い。

蛇紋岩、砂岩Ｄはほぼ製品状態での出土であるため、製品のみの搬入が行われていたと考えられる。この点に関しては、上南部遺跡と同様の様相を呈している。また、報告書によると玉未製品が出土しており、それに加えて細い溝を有する砥石が出土していることから、玉の製作が行われていたと考えられるが、未製品は存在していても素材と思われる原石等が出土していないことから、ある程度の加工が施された段階で搬入された可能性が高い。このような石材搬入形態は、上南部遺跡とは全く異なっており、遺跡間における関係性の存在をうかがわせている。

（２）菊池川流域

ｉ）三万田遺跡(表 14)

①石材利用(図 27)

三万田遺跡からは、玉素材１点と同石材による剥片が出土しており、これは大坪氏によって岩クロム白雲母岩であると同定された。剥片石器にはほぼ遠距離石材が用いられており、特に黒曜石Ａと安山岩Ｆが用いられる。安山岩Ｆがやや多く用いられるが、それほど差異は見られない。黒曜石Ｂが用いられるのは、ごくわずかである。磨製石器には、距離

に関わらず近距離石材と中距離石材が用いられるが、その中でも上南部遺跡と同様に半数近くが蛇紋岩によって構成されており、またその利用は磨製石器に集中している。

打製石斧には、近距離石材が6割以上の割合で用いられ、その中でも特に片岩Aの利用が多い。前時期と同様に、菊池川流域遺跡においては積極的な在地産石材利用が行われている。それに加え、安山岩Eの利用が極端に増加しており、二子山産打製石斧流通との関連がうかがわれる。原石利用石器は、砥石以外の石器にはほぼ全て近距離石材である安山岩Cが用いられており、砥石に用いられる砂岩Cの特殊性が際立っている。

②石材搬入状況(図 28)

遠距離石材は、礫・石核、剥片、製品が出土しているが、上南部遺跡と比較すると製品に対する礫・石核、剥片の割合が非常に低い。すなわち、礫や石核の状態での搬入が行われているものの、上南部遺跡のように剥片剥離作業を重点的に行っているわけではなく、主に使用に対する比率が高いようである。中距離石材については、ほぼ剥片または製品の状態で出土しており、礫での出土はほとんどない。近距離石材は、安山岩については礫状態での出土も多いが、最も多く用いられる片岩Aについては在地産石材であるにもかかわらず礫の出土がほとんどなく、剥片または製品の状態での出土がほとんどである。すなわち、片岩Aは原産地との距離にかかわらずどの遺跡においても剥片搬入が行われていたものと考えられ、石材採取地付近に剥片剥離作業を行う場が存在している可能性が高い。

蛇紋岩、砂岩Dは磨製石器を中心に用いられているが、破片程度の大きさの剥片が出土する以外は全て製品である。また、同様に安山岩Eについても主に打製石器に用いられるが、そのほとんどは製品または製品に近い未製品で、素材となる礫は存在せず、剥片も小型のものが少量出土するのみである。これは上南部遺跡と同様の状況であり、安山岩Eについては製品のみが流通していた可能性が高い。

ⅱ)梅迫遺跡(表 15)

①石材利用(図 27)

梅迫遺跡の様相は、他遺跡と大きく異なる。特殊石器・玉については、縄文時代のものと思われるものは出土していない。剥片石器は、ほぼ遠距離石材のみの利用であり、特に黒曜石Aが7割以上の割合を占めている。しかも定形の石器に用いられるものは少なく、その多くが加工を施さないまま使用する使用剥片として用いられる。このことから、遠距離石材を用いる機会が少なく、使用の際もそれほど加工を施さないことが多かったと考えられる。

磨製石器には、近距離石材である安山岩B・片岩A、中距離石材である砂岩D、蛇紋岩が用いられるが、半分ほどの割合で蛇紋岩が用いられている。砂岩D、蛇紋岩の利用は磨製石器に集中しており、出土状況もほぼ製品であるため製品搬入が行われていたものと考えられる。また、梅迫遺跡からは城・下原遺跡からも出土していた緑色の変はんれい岩の礫が多く出土している。その他の石材としている中の礫62点中45点がこの石材であるが、これを用いた製品は出土しておらず、他遺跡においても出土していない。用途は不明であるが、緑色の蛇紋岩と見た目が似ていることと、各遺跡から蛇紋岩が製品でしか出土しないことから、蛇紋岩製磨製石器が別の場所で専門的に生産され、何らかのブランド志向が

存在していたのであれば、よく似た石材を近場に求めたことも考えられる。

打製石器には全て近距離石材が用いられており、そのほとんどに片岩Ａが用いられる。特に、打製石斧には片岩Ａのみが用いられており、同じ菊池川流域遺跡である三万田遺跡と比較してもそちらでは片岩Ａのみを用いるようなことはなく、その利用状況は特徴的である。また、上南部遺跡や三万田遺跡では多量に出土していた安山岩Ｅを用いた打製石器が全く出土しておらず、この点でも他遺跡と比較した際の特殊性が顕著である。

原石利用石器には、ほぼ近距離石材である安山岩Ｃが用いられ、他には少量の砂岩が用いられているが、ここで着目すべきは片岩Ａ・Ｂがこの石器群に用いられていることである。上述したように、片岩は層理によって剥離しやすく、剥片石器や扁平な打製石器、磨製石器を製作する際には非常に加工が容易な石材である半面、打撃に弱く割れやすいため磨石類のような用途には適していない。石材原産地に近いからこその利用状況であると推測できるものの、三万田遺跡でもこのような利用はされていない。すなわち、梅迫遺跡では片岩Ａに対しどの遺跡よりも豊富な入手が行われていたと考えられる。また、砥石については出土量が多く利用石材も様々であるが、主に砂岩、特に砂岩Ｃが用いられることが多く、他遺跡と同様の傾向が見られる。

②石材搬入状況(図 28)

遠距離石材は、三万田遺跡より多くの石核が出土していることから、遺跡内における剥片剥離作業が行われていたものと思われる。しかし、全体的に石核や剥片の大きさがそれほど大きいものではないうえに、その使用にあたっては上述したように粗雑さが認められることから、自家消費に対する手間がかけられておらず、むしろ他遺跡に搬出するために剥片剥離が行われている可能性が高い。中距離石材については、砂岩以外に対する積極的な利用が見られず、それらが製品か礫の状態で出土していることから、砥石としての利用を前提として目的的に搬入されていたと考えられる。

近距離石材は、安山岩Ｂにおいて多量の礫が出土しているが、その中には細かい礫が混入する礫岩に近いようなものも含めており、それらは製品に用いられていないことから実際の石器製作に対する利用はなかったものと考えられる。これを踏まえて考えると、上述したように片岩Ａの礫の出土量が極端に多く、しかも磨石類に利用できそうな大型の礫も出土している点で梅迫遺跡の特異性が際立って示されている。また、剥片の出土量も非常に多く、同じく出土量の多かった上南部遺跡と比較しても４倍以上である。しかも、上南部遺跡においては剥片に対する製品の量がその半数ほどであったが、梅迫遺跡においては１割にも満たない。すなわち、遺跡内における自家消費量をはるかに上回っており、他遺跡へ搬出を想定した剥片生産を行っていると考えられる。

当遺跡は、弥生時代との複合遺跡であり、縄文時代には住居址をはじめ遺構がほとんど検出されないが、弥生時代には住居址が形成されるようになり、多様な遺構も出土するようになる。また、本分析では弥生時代遺構出土資料とともに大量に除外したが、片岩Ａを用いた磨製石鏃とその未製品がまとまって出土する。このことから、梅迫遺跡は弥生時代には居住を伴う磨製石鏃生産遺跡であったとされている[2](山口編 2004)。しかし、磨製石鏃に用いるには大きすぎる剥片や縄文時代に盛行する扁平打製石斧も多く出土していることから、梅迫遺跡は縄文時代には居住は行われなかったものの、片岩Ａを用いた打製石斧

製作を意図した剥片生産と、他遺跡への搬出のための作業場であった可能性が高い。また、当遺跡からは安山岩Ｅが全く出土しないことから、片岩Ａの剥片生産・搬出と二子山産打製石器の流通には直接的な関係はなく、両遺跡は各々の石材における作業場として確立していたと考えられる。

（３）その他流域

ｉ）島崎遺跡(表 16)

①石材利用(図 27)

島崎遺跡からは特殊石器・玉は出土していないが、１点のみ緑色の不明石材による小型剥片が出土しており、玉素材の可能性がある。剥片石器にはほぼ遠距離石材が用いられており、その中でも主に黒曜石Ａが用いられる比率が高く、出土量も多い。安山岩Ｆ、黒曜石Ｂの利用はほとんどなく、安山岩Ｄやチャートに見られるわずかな利用とほぼ同様の利用状況である。すなわち、剥片石器に用いられる石材の比率が黒曜石Ａに大いに偏っている状況が示されている。

磨製石器には近距離石材である安山岩Ｂも用いられるが、ほとんどは片岩Ｄ、蛇紋岩が用いられている。打製石器には、中距離石材である片岩Ａが少量用いられる以外は、全て近距離石材である安山岩Ａ・Ｂによって占められている。同時期において、遺跡と原産地の距離に関係なく積極的に用いられている片岩Ａはあまり用いられておらず、剥片等の出土もない。また、安山岩Ｅ製の石器は全く出土しておらず、二子山産打製石斧の流通との関わりがうかがえない。原石利用石器には他遺跡と同様に安山岩Ｃ、砂岩が用いられる。砥石は少量出土し、砂岩Ｂと近距離石材である安山岩Ａが用いられている。しかし、原石利用石器に用いられる石材自体の出土量が少なく、他遺跡で多量に出土していた安山岩Ｃの礫すら出土しない。

全体的に、黒曜石Ａに対する利用比率が非常に高い。また遺跡内において遺構が多く検出されている割には住居址が出土していないという点からも、むしろ黒曜石Ａを中心とした石器製作・剥片生産遺跡であった可能性が高い。

②石材搬入状況(図 29)

遠距離石材は上述したように黒曜石Ａの比率が高い。出土状況を見てみても、他石材は製品、剥片がわずかな量出土しているのみであるのと比べて、石核・礫、剥片の出土量が非常に多い。すなわち、この点から島崎遺跡では黒曜石Ａに対する偏向的な石材利用と剥片剥離作業が行われていたと考えられる。この傾向は、他石材が製品やごくわずかの剥片によって構成されている中で非常に際立っている。しかし、黒曜石Ａの石核は小型のものが多く、上南部遺跡から出土している拳大の未使用の原石が出土することもないことから、上南部遺跡のような大規模生産は行っていなかったと考えられる。

ⅱ）二の峠遺跡(表 17)

①石材利用(図 27)

二の峠遺跡は、石器出土量が特に少ない。特殊石器・玉は出土しない。剥片石器には他遺跡と同様にほぼ遠距離石材である黒曜石Ａ、安山岩Ｆが用いられ、両者の利用比率は同

様である。他には近距離石材であるチャートと中距離石材である安山岩Dが用いられる。磨製石器には近距離石材である片岩C、砂岩Dが用いられる。砂岩Dについては他遺跡と同様の石材利用が行われているが、本遺跡では同様に磨製石斧に集中して用いられる蛇紋岩の出土はない。打製石器には、出土量の半数以上に安山岩Eが用いられており、二子山産打製石器の流通との関連性がうかがえる。その他に安山岩B、片岩A、砂岩Dが用いられるが、それぞれごく少量である。原石利用石器にはほぼ近距離石材である砂岩が用いられており、産地と遺跡立地の関係のためか他流域遺跡において多用される安山岩Cは用いられていない。また、全対象遺跡において石英が目的的に用いられることはないが、本遺跡では唯一1点のみ磨石として石英の円礫が用いられている。これらのことから、原石利用石器に対してはごく近距離で産出される石材のみを用いることが分かり、各遺跡で砥石として利用される砂岩が、いかに目的的な利用が行われていたものであったのかということが理解される。

②石材搬入状況(図 29)

二の峠遺跡においては、原産地との距離にかかわらず全ての石材が製品状態でしか出土しない。剥片の出土も黒曜石Aにしか認められず、礫の出土も砂岩Bのみであり、それらの出土量もごくわずかである。このことから、原石利用石器以外のほぼ全ての石器が製品状態で搬入されていると考えられる。住居址が出土する居住遺跡において、このような状況は前時期にも同時期にも見られず、非常に特徴的である。

iii)鳥井原遺跡(表 18)

①石材利用(図 27)

鳥井原遺跡より出土した石器は非常に少量で、これは調査区面積の狭さが影響しているとも考えられるが、土器の出土量と比較するとやはり少ないと思われる。また、報告によると、土器の散布状況も住居址が検出される遺跡とは異なっていることから、祭祀場か季節的な作業場の可能性が考えられている(富田編 1987)。しかし、石器も含め祭祀的遺物が出土していないことからも後者の可能性が高いという。

特殊石器・玉として、未実見資料ではあるが緑色の玉製品が1点出土している。報告書には角閃岩と記載してあるが、本稿における玉石材である可能性もある。剥片石器には、他遺跡と同様に遠距離石材である黒曜石A、安山岩Fが用いられているが、その出土量は少ない。磨製石器には砂岩B・D、蛇紋岩が用いられている。打製石器の出土量も不明石材を合わせても2点と少ないが、用いられている石材は安山岩Eであることから、二子山産打製石斧の流通との関連がうかがわれる。原石利用石器は出土しておらず、利用が全くなかったのかも含め、石材利用状況が不明である。

②石材搬入状況(図 29)

全体的に、製品として利用されている石材は製品状態での出土が多く、その形態での搬入が考えられる。黒曜石A・Bについては、剥片の出土があるもののその量はわずかに1点ずつであり、剥片状態で搬入されていたものはほとんどなかったと考えられる。製品としての利用がない石材については礫が出土しているが、礫から剥出され素材となったであ

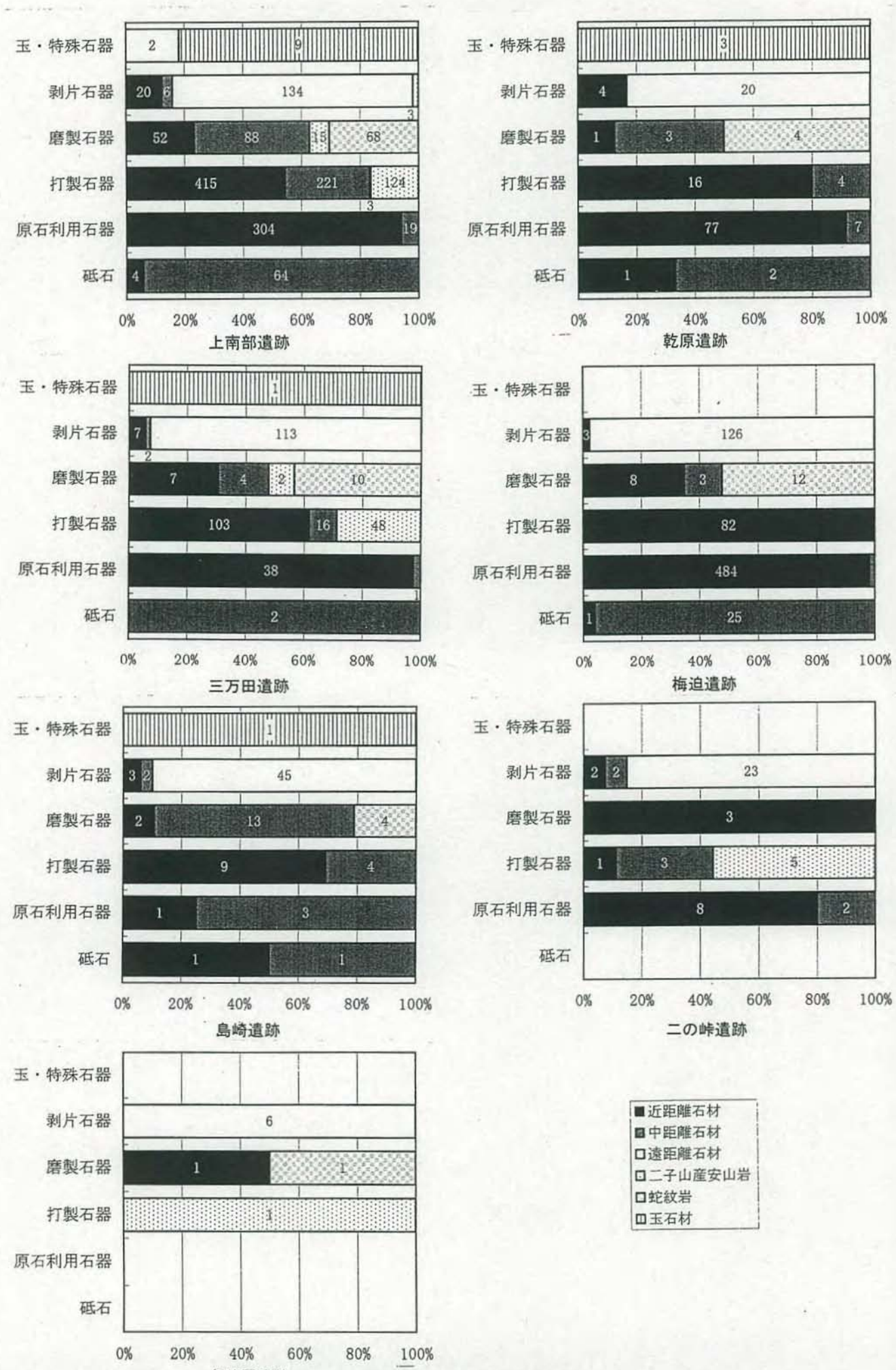


図27　各遺跡における石材利用（Ⅱ期）

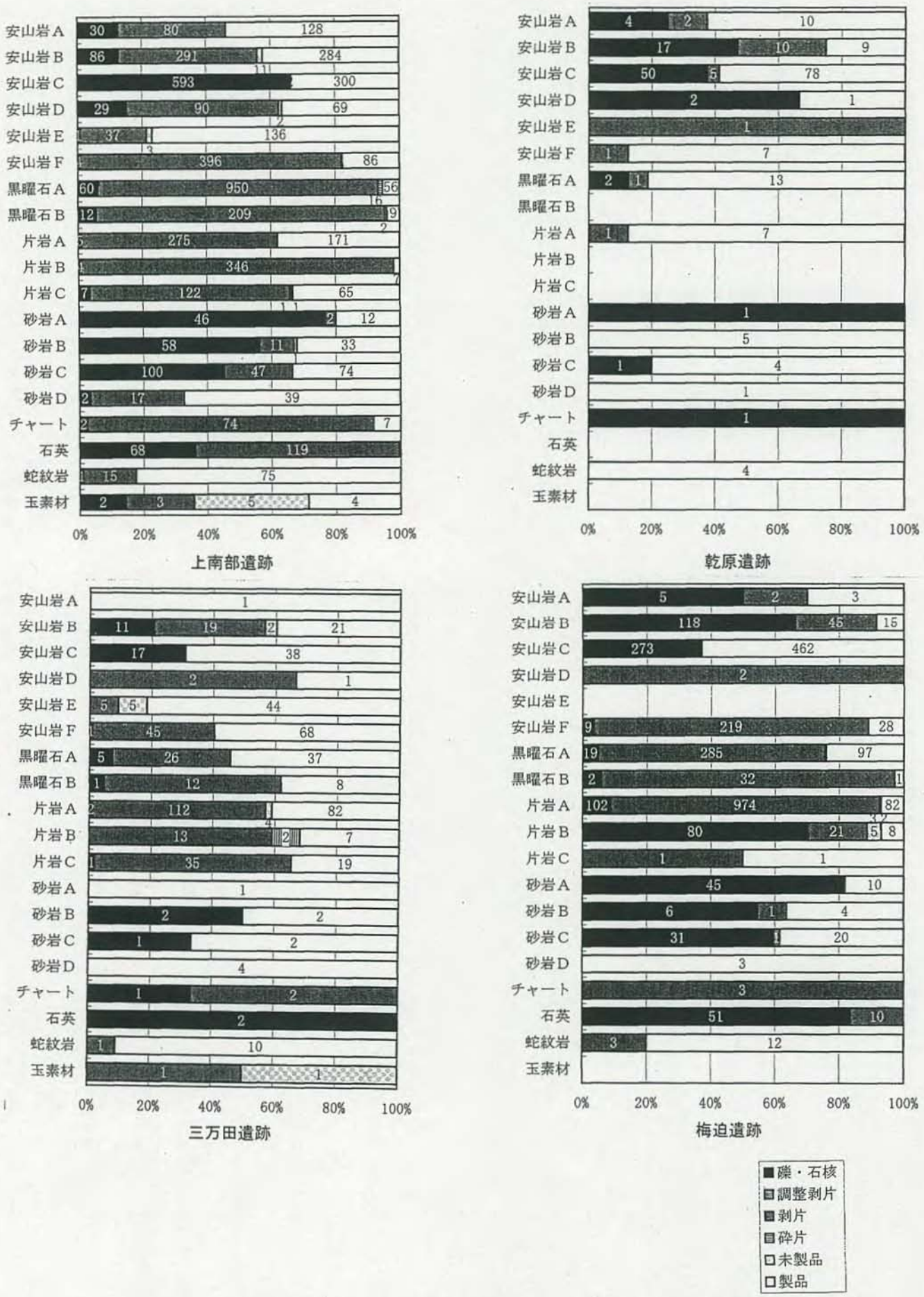
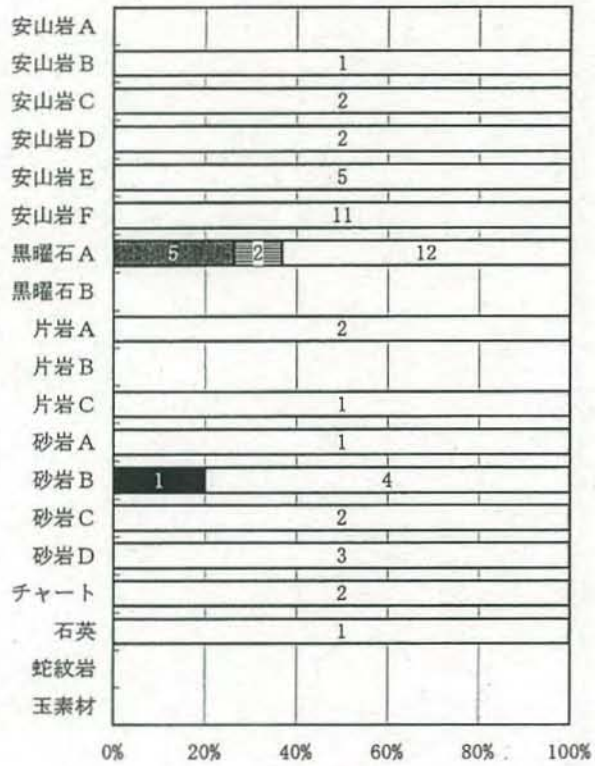
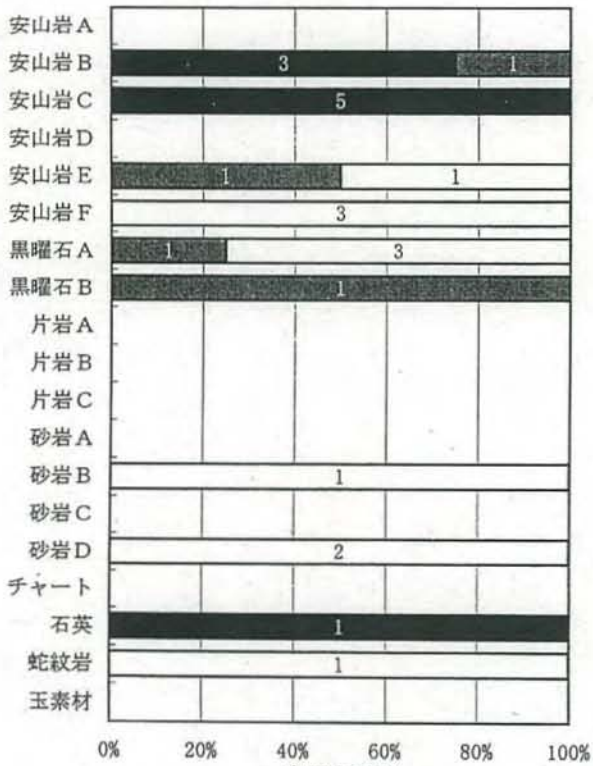


図28　各遺跡における石材搬入状況（Ⅱ期：白川・菊池川流域）

島崎遺跡



二の峠遺跡



鳥井原遺跡

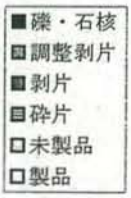


図29　各遺跡における石材搬入状況（Ⅱ期：その他流域）

ろう剥片の出土がほとんどなく、その利用状況が推定できない。

(4)石材流通と流通の様相

Ⅱ期は、前時期と異なり財のレベルに対する石材利用に対し、河川流域を越えて統一感が示されるようになる。剥片石器には遠距離石材、磨製石器に蛇紋岩、砂岩D、中・近距離石材、原石利用石器に近距離石材、主に安山岩Cが用いられるのは変わらないが、玉石材を用いた玉の出土量の増加、打製石器に対する在地産安山岩、片岩A、安山岩Eの多様な利用といった新たな様相が示される。

磨製石器に用いられる蛇紋岩と砂岩Dは、その流通量が拡大するが、前時期と同様に製品状態で各遺跡に流通している。同様の流通形態は安山岩Eにも見られる。安山岩EはⅠ期においても認められるものの、その出土量はⅡ期と比較するときわめて少ない。すなわち、Ⅰ期には個別採取が行われていたが、Ⅱ期になって二子山産打製石器の流通が出現し、その流通システムが蛇紋岩等と同様の一元的なものであったことが示されている。また、原石利用石器に多用される安山岩Cは、遺跡立地流域河川の河原にて直接採取されたものであろう。このように、二子山産打製石器流通における差異は存在するものの、基本的に前時期と差異の見られない石材流通が示される中にあって、剥片石器に用いられる黒曜石Aと打製石器に用いられる片岩A、玉石材については前時期との差異が明確に示される。

i)片岩A

この時期に増加するA1類の大規模集落遺跡の1つである上南部遺跡からは量、種類ともに石材原産地の距離に関係なく豊富な石材が出土しており、これが他遺跡と比較しても非常に突出したものであることから、多くの石材がこの遺跡に意図的に集められたものであると判断できる。特に、前時期には上南部遺跡の立地する白川流域遺跡では見られなかった片岩Aの利用が、この時期になると積極的に見られるようになる。しかも、上南部遺跡では片岩Aが剥片、製品の状態でのみ出土している様相が見られるが、原産地である菊池川流域遺跡の梅迫遺跡では、原石と剥片の大量出土が見られる。このことから、おそらく菊池川流域遺跡で剥出された剥片が白川流域の遺跡に搬出されたものと考えられる。すなわち、前時期に見られなかった石材利用の様相から河川流域を越えた遺跡間の密接な関係性が生じていることを理解することができる。

また、梅迫遺跡と同様に菊池川流域遺跡である三万田遺跡においては、礫状態の片岩Aが出土しておらず、剥片、製品によって構成されている。この場合、前時期の城・下原遺跡と同様の立地と遺跡類型である梅迫遺跡で剥片剥出作業が行われ、それらがA3類の集落遺跡である三万田遺跡に搬出されているものと考えられる。すなわち、片岩Aに関しては遺跡類型によって明確な機能分化が生じているうえに、その流通範囲が拡大しているのである。

ii)黒曜石A

黒曜石Aについて見てみると、上南部遺跡における原石、石核、剥片の多量な出土状況から、遺跡内における剥片生産が行われていることが分かる。ここで、上南部遺跡以外の遺跡における黒曜石Aの出土状況を見てみると、上南部遺跡には及ばないものの剥片剥離

作業を行っている遺跡、剥片と製品が出土するおそらく製品加工作業は行われている遺跡、製品のみが出土する消費段階の遺跡が存在する。剥片剥離作業が行われている遺跡はあるものの、出土量、原石の存在から考えると上南部遺跡の特殊性が際立っている。すなわち、上南部遺跡から搬出された原石・石核を利用して剥片剥離作業を行う遺跡、剥片が搬出されて製品加工と使用を行う遺跡、加工された製品が搬入され使用のみを行う遺跡がそれぞれ存在したということである。個々の遺跡の直接的な関係を示すことは不可能であるが、遺跡立地との関係を見てみると、菊池川流域には剥片剥離作業を行っている梅迫遺跡(B類)と剥片を搬入している三万田遺跡(A３類)が存在しており、白川流域内や緑川流域には製品の利用のみが行われた乾原遺跡(A３類)、鳥井原遺跡(C類)、二の峠遺跡(A３類)が存在している。すなわち、河川流域によって異なった性質の石器生産・消費段階の遺跡が存在しており、前時期に見られたような個別の流域内における広域石材流通の完結状況がより大規模に拡大しているのである。

また、Ⅰ期にはA１類以外のA類遺跡が中心地遺跡としての役割を有していたが、Ⅱ期ではA１類遺跡とB類の遺跡でのみ剥片剥離作業を伴う大量保有が見られる。その中でも、原石保有を示すのはA１類遺跡のみである。すなわち、A１類遺跡が中心地遺跡となって、他A類遺跡に剥片を搬出し、B類遺跡に礫・石核状態の石材を搬出していたものと思われる。また、A１類遺跡では自家消費用の製品が多数出土している。一方、B類遺跡では剥片剥離作業が中心に行われるが、使用を行うことはほとんどなく、作業遺跡としての機能のみを有していたと考えられる。このことから、Ⅰ期には片岩Aに対してのみ遺跡の機能分化が生じていたが、Ⅱ期では中心地遺跡をも含み皿に発達した遺跡の機能分化が生じているのである。

iii）玉石材

Ⅱ期になると、玉石材の利用が活発化する。黒曜石Aにおいて中心地遺跡であった上南部遺跡では、この石材の原石、剥片生産の痕跡を有する加工礫、素材剥片、未製品、製品と多様な状態での出土が見られる。すなわち、上南部遺跡では原石段階からの玉製作が行われている。一方、他遺跡においては素材剥片、未製品、製品の出土は見られるものの、上南部遺跡のように原石や剥片生産の痕跡を示す加工礫が出土する状況は見られない。このことから、玉石材の原産地からA１類遺跡である上南部遺跡へ原石搬入が行われ、そこで加工された素材・未製品、製品が他のA類遺跡へ搬出されていたと考えられる。この場合、未製品の加工はともかく、原石から素材を切り出す作業が行われるのはA１類遺跡のみであり(3)、B類遺跡ではこの作業が行われない。よって、この石材に対してもA１類遺跡のみに特徴的な遺跡の機能分化が生じている。

以上のように、Ⅱ期はⅠ期と比較して石材利用に対する河川流域を越えた遺跡間の関係性が密接なものへと変化する。また、より広範囲において遺跡類型に沿った遺跡の機能分化が生じている。すなわち、Ⅰ期には河川流域内で完結していた石材入手とその利用が、全ての河川流域遺跡集中圏を含めた広範囲に拡大するようになるのである。

３．Ⅲ期

（１）白川流域

ｉ）扇田遺跡(表 19)

①石材利用(図 30)

扇田遺跡では特殊石器・玉が出土しているが、前時期までとは異なり安山岩Ｃや砂岩Ｄが用いられるようになる。用いられる石材がより近距離のものになっているが、この要因が新たな器種が登場したことによるものなのか、目的的な石材利用が行われなくなったことによるものなのかは不明である。

剥片石器にはほぼ遠距離石器が用いられ、Ｉ・Ⅱ期と同様に黒曜石Ａ、安山岩Ｆが多用される。磨製石器には安山岩Ａ・Ｂ、砂岩Ｄ、蛇紋岩が用いられ、磨製石斧には砂岩Ｄ、蛇紋岩が、局部磨製石斧には近距離石材である安山岩Ａ・Ｂが用いられるというように、より石材選択の幅が狭まっている様相が認められる。打製石器のうち打製石斧の出土量は本遺跡内の製品石器の中で最も多く、その石材には近距離石材である安山岩Ｂが最も多く利用されている。後期後半に多量に用いられていた安山岩Ｅや片岩Ａは、用いられてはいるものの、安山岩Ｂと比較すると少量である。すなわち、Ⅲ期になるとⅡ期に見られた他流域産石材の積極的な利用が行われなくなると考えられ、それに伴う遺跡間の石材流通も行われなくなると推測される。原石利用石器には主に安山岩Ｃが用いられ、わずかに砂岩が用いられるという傾向は前時期と変わらず、また砥石に砂岩Ｃが主体的に用いられるという特定の石材利用も継続される。

②石材搬入状況(図 31)

遠距離石材は石核・礫、剥片、製品が出土しており、遺跡内における剥片剥離作業が行われていたと考えられる。しかし、出土する石核・礫はＩ期に見られたような風化し丸みを帯びた小型のものが多く、石核についてはその風化礫に対し１度剥離を行った形跡が見られるものがほぼ半数を占める。礫に至っては、数点を除いてほぼ全点がそのような風化礫であった。このような礫から多量の剥片を得ることは不可能であるため、多くの剥片はすでに剥離が行われた状態で搬入された可能性が高い。このような風化礫はＩ期にも見られたものの、扇田遺跡のように大量に出土する例はなく、その位置付けは困難である(1)。しかし、Ⅲ期になると北部九州地域において小型の礫や石核、剥片が流通するようになるという事例も示されており(橘 1984、吉留 2004)、何らかの関連がうかがえる。

中距離石材については、上述したように片岩Ａがそれほど用いられなくなるという状況が示されているが、剥片と製品が出土することから剥片状態での搬入であったと考えられ、菊池川流域遺跡のあり方によっては直接的な関連があったことも考えられる。これについては川辺西原遺跡の様相と合わせて考えてみたい。また、安山岩Ｅはほぼ製品状態で搬入されているが、その量は前時期と比較すると極端に減少しており、晩期における二子山産打製石器の流通がほぼ衰退していることが理解できる。また、本遺跡では天城式以降の土器が出土していることから、安山岩Ｅはやや古い時期のものである可能性も高い。その一方で、砂岩Ｃに対する砥石としての積極的な利用は依然として認められることから、砂岩に関しては遺跡間の関わりに左右されず必要量の入手が行われていたと考えられる。

近距離石材は多く用いられる傾向にあるが、遺跡内における礫の出土はほぼなく、このことから石材の採取が可能な土地まで赴いて剥片剥離を行い、遺跡内に持ち帰っていた可能性が高い。特定石器にのみ用いられている蛇紋岩、砂岩Ｄについては、前時期と同様に

製品状態での出土であり、わずかに出土する剥片も製品が破損した際に生じるような小剥片であることから、製品の搬入が行われていたと考えられる。

（2）菊池川流域

ｉ）川辺西原遺跡(表 20)

①石材利用(図 30)

川辺西原遺跡からは、特殊石器・玉は出土しない。剥片石器には全て黒曜石Ａが用いられており、他石材は全く用いられない。さらに、黒曜石Ａについても定形の剥片石器は出土せず、簡単な加工が施されるかもしくはそのまま用いられることから、剥片石器の利用自体が少なかったものと思われる。磨製石器には片岩Ｃと蛇紋岩が用いられており、前時期までこの地域で見られていた片岩Ａや砂岩Ｄの利用はない。豊富に入手できるはずの片岩Ａが用いられていないことから、磨製石器に対しては特定石材の利用により偏向していた可能性が高い。打製石器にはほぼ片岩Ａが用いられており、近距離石材であっても安山岩等の他石材は用いられない。すなわち、扇田遺跡と同様に打製石器は近距離石材によってまかなわれており、本遺跡では特に片岩Ａのみを用いる傾向にある。原石利用石器は、近距離石材である安山岩Ａ・Ｃ、片岩Ａが用いられ、中距離石材である砂岩が用いられることはまれである。前時期までと同様に、原産地に近いことから片岩Ａの礫を磨石として用いるといった特殊な利用状況もあり、依然として片岩Ａの豊富な入手が可能であったことを示している。

②石材搬入状況(図 31)

遠距離石材のうち安山岩Ｆ、黒曜石Ｂについては、製品が出土せずわずかな剥片のみが出土することから、搬入自体がそれほどなく、あったとしても剥片状態での搬入であったと思われる。そのような中で黒曜石Ａのみが豊富な出土量を示し、石核や礫も出土するものの、それらは扇田遺跡から出土するような風化礫であったり、２cm にも満たない小型石核であるため実際に剥片剥離作業が行われていたとは考えにくい。すなわち、出土する剥片の多くはその形態で搬入されたと考えられる。しかし、他石材よりは出土量が豊富であるため、積極的に入手していた可能性は高い。

中距離石材は砂岩を中心にほぼ出土せず、利用自体が希薄である。近距離石材は安山岩Ｃが磨石類に少量用いられる以外はほとんど出土しないが、片岩Ａは礫、剥片、製品が出土している。しかし、前時期に見られるような多量な剥片生産の様相は見られず、むしろ自家消費程度の利用であるように考えられる。これには、発掘調査区の面積が狭いという原因があるものの、出土量が減少していることは確かであり、確実に前時期のような流域を超えた規模の片岩Ａの積極的な利用と入手が行われなくなった結果であると捉えられる。これは、扇田遺跡における片岩Ａ利用の少なさからも裏付けられており、総じてⅢ期における遺跡間の関係性が希薄になっていることを示している。ただし、扇田遺跡の片岩Ａの出土状況から見て、希薄にはなったものの遺跡間における石材を巡る関わりはわずかなりとも残っていた可能性もある。または、川辺西原遺跡から遺構が全く検出されないことと、その周辺に集落遺跡が存在しないことから考えて、本遺跡は片岩Ａを入手するための作業場であり、必要に応じて各流域地域の遺跡から直接入手のために人々が訪れていたとも考

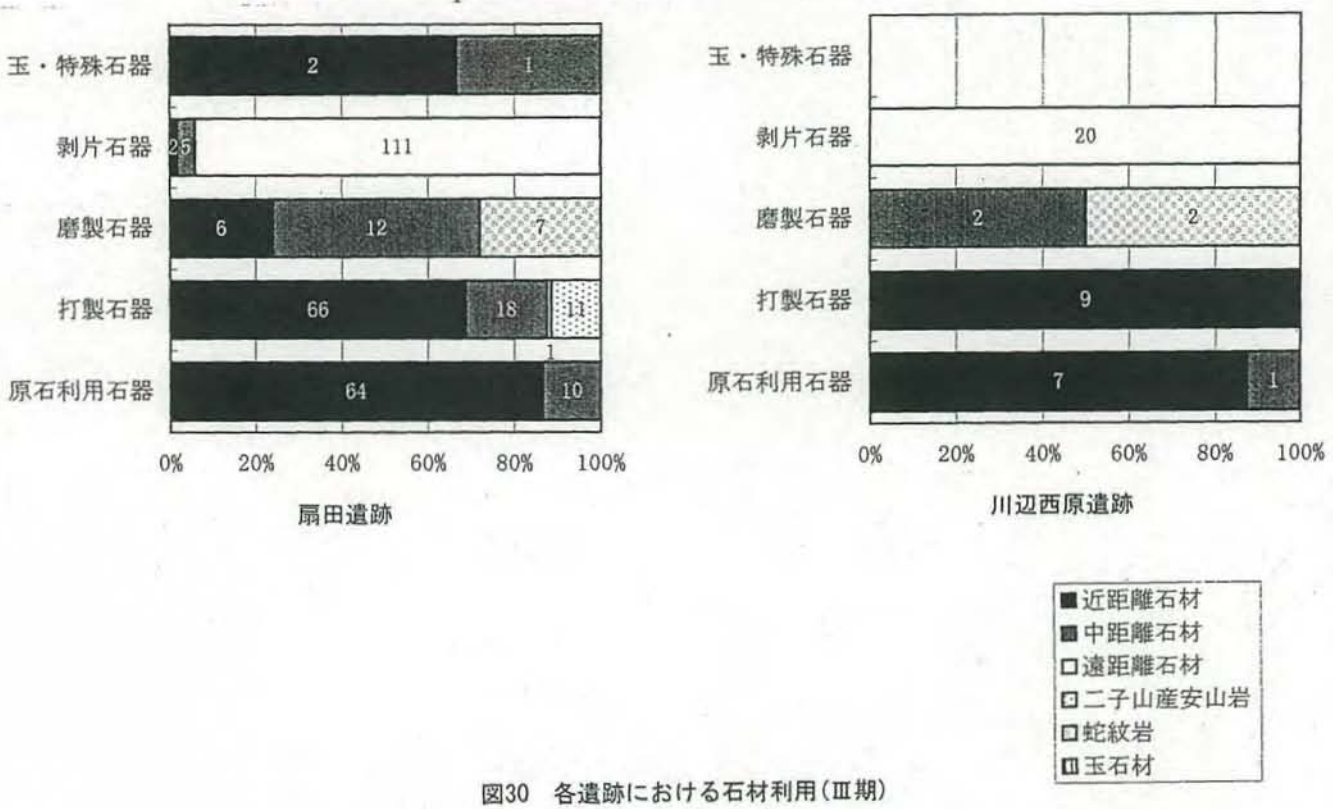


図30　各遺跡における石材利用(Ⅲ期)

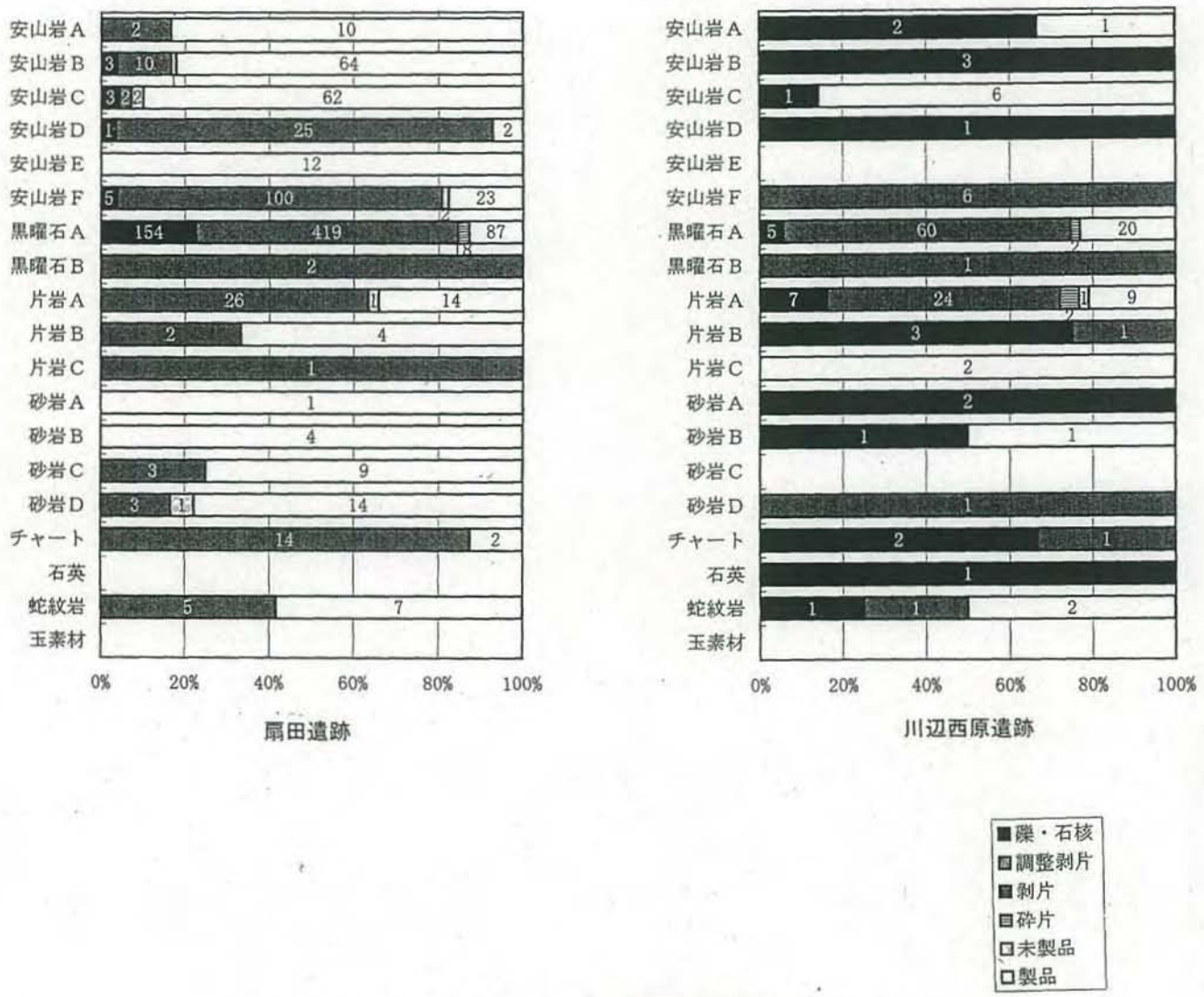


図31　各遺跡における石材搬入状況(Ⅲ期)

えられる。扇田遺跡における片岩Ａの入手方法に疑問は残るが、前時期と比較して石材利用における遺跡間の関係が希薄になっていることは確かである。

しかし、このような中で依然として蛇紋岩製磨製石斧の製品搬入が認められることから、この石材に関しては小地域内の石材流通に左右されず、前時期を通して個別の流通体系を保持していたと考えられる。

（３）石材利用と流通の様相

Ⅲ期においては、剥片石器には依然として遠距離石材を用いる傾向があるが、特殊石器・玉、打製石器にはより近距離の石材が用いられるようになる。その一方で、磨製石斧にはⅠ・Ⅱ期と同様に蛇紋岩、砂岩Ｄが用いられ、それらが製品の形態で流通している。すなわち、Ⅰ期のように各遺跡によって個々に石材採取が行われており、Ⅱ期に大きく発達した遺跡間の河川流域遺跡集中圏を越えるような密接な関係性が崩壊していることが示されている。また、遠距離石材である黒曜石Ａの大量保有を行っている遺跡は、Ａ２・Ｃ類の遺跡であり、Ⅱ期に見られたような特定類型遺跡に特定の役割が存在するという遺跡の機能分化は生じていない。遺跡間の関係性が密接ではなかったⅠ期においてすら、黒曜石Ａの流通に中心的に関わっていた遺跡はＡ類遺跡であったことを考えれば、Ⅲ期はさらに流通システムが衰退していることが分かる。

遺跡数の問題から具体的な様相がはっきりしないものの、石材利用の状況から遺跡間の関係性の希薄化を想定することができる。しかし、これにはかえって遺跡数の減少が強く影響しているものと思われ、前述したように人々の地域外への拡散があったのかもしれない。しかしながら、Ⅰ期からⅢ期に至る石材利用を通して見ると、Ⅱ期における河川流域を越えた石材流通の様相は非常に特異な状況を示しており、遺跡分布や住居址の大規模化等の現象と合わせてやはり大きな変化期であると捉えられる。では、この後期後半の具体的な石材流通状況とそれに伴う遺跡間・集団間の関係性とはどのようなものであったのだろうか。次章で検討を加えたい。

註

（1）風化礫については、小畑弘己氏によって腰岳産黒曜石でない可能性を指摘されており、その様相について述べるにはより実証性の高い石材同定を行う必要があると考える。

（2）梅迫遺跡については、弥生時代に帰属すると判断できる石器は可能な限り分析対象から除外している。しかし、弥生時代における磨製石鏃生産遺跡という性格と砥石の出土量を考えると、その多くは弥生時代に帰属するものである可能性もある。

（3）対象遺跡ではないが、上南部遺跡と同様の出土状況を示す遺跡としてワクド石遺跡が挙げられる。ワクド石遺跡では多量の原石が出土しており、素材剥片、未製品、製品が出土し、そのうえ上南部遺跡と同様にＡ１類遺跡に相当する。すなわち、玉石材における流通において原石段階からの玉製作が行われる遺跡はＡ１類遺跡に限られていたと考えられる。

表６　北久根山遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃						4														1					5
	石鏃未製品								1																	1
	石匙						1																			1
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片						1																			1
	使用剥片																									0
磨製石器	磨製石斧																					3				3
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器																									0
打製石器	打製石斧	1	1		1														1							4
	打製石斧未製品																									0
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			10																						10
	石皿・台石																									0
	石錘			1														1								2
	加工礫																									0
	砥石																									0
その他	石核																									0
	調製剥片																									0
	剥片	3	6		1		12		3		1	1			1			1								29
	砕片																									0
	礫	3	5	36	1							1		1				9			1					57
	その他																									0
	不明石器																									0
計		7	12	47	3	0	18	0	4	0	1	2	0	1	1	0	0	11	1	0	2	3	0	0	0	113

表7　六地蔵遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃						4		4		1															9
	石鏃未製品																									0
	石匙						2																			2
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片				1		12																			13
	使用剥片						4				1															5
磨製石器	磨製石斧																									0
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器																									0
打製石器	打製石斧		8									1														9
	打製石斧未製品																									0
	円盤状石器																									0
	円盤型石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌		1																							1
原石利用石器	磨石・敲石			139																						139
	石皿・台石																									0
	砥石																									0
	石錘																									0
	加工礫																									0
その他	石核																									0
	調製剥片																									0
	剥片	1	28		2	1	20		2			1	2													57
	砕片																									0
	礫			364	1																					365
	その他								1																	1
	不明石器																									0
計		1	37	503	4	0	42	0	7	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	601

表８　千原台遺跡出土石一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃																									0
	石鏃未製品																									0
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片																									0
	使用剥片																									0
磨製石器	磨製石斧	1			1															1		1				4
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器							1																		1
打製石器	打製石斧		2									1		1				1				2				7
	打製石斧未製品											1													1	2
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			23												1	3	3								30
	石皿・台石																									0
	砥石																									0
	石錘			1																						1
	加工礫	1	1																							2
その他	石核																									0
	調製剥片																									0
	剥片		1																							1
	砕片																									0
	礫																	2								2
	その他																									0
	不明石器																									0
計		2	4	24	1	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1	3	6	0	1	0	3	0	0	1	50

表９　木柑子下原遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片・石器	石鏃						2		2		1	1														6
	石鏃未製品																									0
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片							1	1			2														4
	使用剥片																									0
磨製石器	磨製石斧											1							1			2				4
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧					1																				1
	磨製石器																									0
打製石器	打製石斧		1	1		1						6														9
	打製石斧未製品		1									1														2
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			2													1									3
	石皿・台石																									0
	砥石																									0
	石錘																									0
	加工礫																									0
その他	石核																									0
	原石																									0
	調製剥片																									0
	剥片	1	4		3		22		12			34				1		2			10					89
	砕片																									0
	礫		1													1										2
	その他																									0
	不明石器																									0
計		1	7	3	3	2	24	1	15	0	1	45	0	0	0	2	1	0	1	0	10	2	0	0	0	120

表10　木柑子東山ノ上遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃						3		17	1											1					22
	石鏃未製品						1		3																	4
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片				1		3		8			1														13
	使用剥片						2		11	2											3					18
磨製石器	磨製石斧											1										2				3
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器																					1				1
打製石器	打製石斧		1			1						5														7
	打製石斧未製品																									0
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			27														1								28
	石皿・台石			1																						1
	石錘																									0
	加工礫																									0
	砥石																	1								0
その他	石核				2		1		41	1											1					46
	調製剥片																									0
	剥片	1	33	1	46	7	104	17	164	16	2	34	12	1			1	2		1	11	2			2	457
	砕片						1		5																	6
	礫	2	3	5	2			1	10											1					3	27
	その他																									0
	不明石器																									0
計		3	37	34	51	8	115	18	259	20	2	41	12	0	0	0	0	4	0	2	16	5	0	0	5	633

表11　城・下原遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃								2																	2
	石鏃未製品																									0
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片						2		4			4														10
	使用剥片								4																	4
磨製石器	磨製石斧																									0
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器													1												1
打製石器	打製石斧											15										1				16
	打製石斧未製品											1														1
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			7											1											8
	石皿・台石																									0
	石錘			1											1											2
	加工礫																									0
	砥石																2									2
その他	石核								4																	4
	調製剥片																									0
	剥片	2	1				16	3	19	2		69	5	2							1		1		4	125
	砕片																									0
	礫	3	23	30	2			10	2		1	33	17	4	13	3				2	4		17		15	179
	その他																									0
	不明石器																									0
計		5	24	38	2	0	18	13	35	2	1	122	22	7	15	3	2	0	0	2	5	1	18	0	19	354

表12　上南部遺跡出土石一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器						2																		7	9
	玉																							4		4
	玉素材																							5		5
剥片石器	石鏃						8		11	3	1	2									5					30
	石鏃未製品						1		2																	3
	石匙						5																			5
	石匙未製品								1																	1
	石錐						1																			1
	加工剥片	2	10		3	2	46		13	6		1		1			1			2	1				1	89
	使用剥片		4		1	1	20		29					1												56
磨製石器	磨製石斧	3	20		4	3		6				11		12			5	10	25	2		56			6	163
	磨製石斧未製品																					1				1
	局部磨製石斧	3	14		3	9						14		6			1		4	1		2				57
	磨製石器	1	3		1									1			1	4		3		9			4	27
打製石器	打製石斧	87	198		48	101	3	9				130	3	34			1	5	10	14	1				2	646
	打製石斧未製品		9		2	3								1			1									16
	円盤状石器	32	19	1	7	19		1				9	4	9				11							3	115
	円盤状石器未製品		2	2																						4
	十字形石器		1		1			1				1														4
	分銅形石器		2			1		1				3														7
	打製石鎌		4		1												1			1						7
原石利用石器	磨石・敲石			270										1		1	2	9								283
	石皿・台石		6	3														2								11
	石錘			21														1		3					1	26
	加工礫		2	2																						4
	砥石		1	3												11	21	32		1					2	71
その他	石核				1		4		50	10											1		5			71
	調製剥片								7	1																8
	剥片	80	291		90	37	396	11	950	209	1	275	346	122	18	2	11	47	17	42	74	15	119	3	3	3159
	砕片						1		16	2				1									1			21
	礫	30	86	593	28	1		6	10			5	4	7		46	58	100	2	7	1	1	63	2	31	1081
	その他																									0
	不明石器											1						1								2
計		238	672	895	190	177	487	35	1089	231	2	452	357	196	18	60	103	222	58	76	83	84	188	14	60	5987

表13　乾原遺跡出土石一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	他	A	B	他	A	B	C	他	A	B	C	D	他						
玉類	特殊石器																								(1)	(1)
	玉																								(1)	(1)
	玉素材																								(1)	(1)
剥片石器	石鏃						(1)		(9)																(4)	(14)
	石鏃未製品																									0
	石匙						(1)																			(1)
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片	2	1	1			(5)		(4)																(22)	4(31)
	使用剥片																									
磨製石器	磨製石斧											(2)							1			2(2)			(14)	3(18)
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器																			(2)					(3)	(5)
打製石器	打製石斧	3(4)	2(3)		1							1(1)								1					(13)	8(21)
	打製石斧未製品											1														0
	円盤状石器		2(1)									(1)								(1)					(1)	2(4)
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			62(10)													5	2		(3)					(86)	69(99)
	石皿・台石	1		(2)																(1)					(6)	1(9)
	石錘			(1)																						(1)
	加工礫																									0
	砥石			1(1)														2		(1)						3(2)
その他	石核								(1)																	(1)
	調製剥片																									0
	剥片	2	10	5		1	1		1			1														21
	砕片																									0
	礫	4	17	50	1				1							1		1	1	1	1				1	79
	その他																									0
	不明石器																									0
計		12 (4)	32 (4)	118 (14)	2	1	1 (7)	0	2 (14)	0	0	3 (4)	0	0	0	1	5	5	2	2 (8)	1	2 (2)	0	0	1 (152)	191 (209)

※()は報告書掲載資料

表14　三万田遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																								6	6
	玉																									0
	玉素材																							1		1
剥片石器	石鏃		1				28		25	5	2															61
	石鏃未製品						1		1																	2
	石匙						2																			2
	石匙未製品																									0
	石錐								2																	2
	加工剥片		2				11		5	1		2		1												22
	使用剥片		2				26		4	2									1							35
磨製石器	磨製石斧		2			1						4	1	2					1	1		9				21
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器													1								1				2
打製石器	打製石斧	1	12		1	41						76	5	14					3						1	154
	打製石斧未製品		2			5						4		1												12
	円盤状石器			2		2																				4
	円盤状石器未製品												1													1
	十字型石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			29												1										30
	石皿・台石			1																						1
	石錘			5																						5
	加工礫		2	1																						3
	砥石																2									2
その他	石核						1		2	1																4
	調整剥片																									0
	剥片		19		2	5	45	2	26	12		112	13	35							2	1		1	1	276
	砕片												2													2
	礫		11	17					3			2		1			2	1			1		2		1	41
	その他								1																	1
	不明石器																									0
計		1	53	55	3	54	114	2	69	21	2	200	22	55	0	1	4	1	5	1	3	11	2	2	9	690

表15　梅迫遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃						2		5																	7
	石鏃未製品						2																			2
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片		1				17		16		1	2														37
	使用剥片						7		76	1																84
磨製石器	磨製石斧		4											1					1			10				16
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧											4										1				5
	磨製石器																		2			1				3
打製石器	打製石斧											61			1											62
	打製石斧未製品											2	3												1	6
	円盤状石器	1	1									8	1													11
	円盤状石器未製品											1	2		1											4
	十字形石器			1								1														2
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石		3	422								4	4			4	3	1								441
	石皿・台石	1	5	30								1	1													38
	石錘			9								1	1													11
	加工礫	1											1			1										3
	砥石		1												1	5	1	19		2						29
その他	石核						8		18	2																28
	調製剥片																									0
	剥片	2	45		2		219		285	32	3	974	21	1	1		1	1			3	3	10		3	1606
	砕片								1			2														3
	礫	5	118	273			1		1			102	80		2	45	6	31		9			51		62	786
	その他																									0
	不明石器							1																		1
計		10	178	735	2	0	256	1	402	35	4	1163	114	2	6	55	11	52	3	11	3	15	61	0	66	3184

表16　島崎遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃						2		5												1					8
	石鏃未製品								2																	2
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片				3		3		5			1														12
	使用剥片								27	1																28
磨製石器	磨製石斧		1																13			4			1	19
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧		1																							1
	磨製石器																									0
打製石器	打製石斧	1	7									4														12
	打製石斧未製品																									0
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品		1																							1
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			1													2		1							4
	石皿・台石																									0
	石錘																									0
	加工礫																									0
	砥石	1															1									2
その他	石核								23		1															24
	調製剥片																									0
	剥片	2					4		279	1	1			1					3		2				1	294
	砕片								13																	13
	礫		6		1				19	1	7															34
	その他																								1	1
	不明石器												1													1
計		4	16	1	4	0	9	0	373	3	9	5	1	1	0	0	3	0	17	0	3	4	0	0	3	456

表17　二の峠遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃				1		4		2		2										2					11
	石鏃未製品								1																	1
	石匙				1		1																			2
	石匙未製品						1																			1
	石錐																									0
	加工剥片						4		9		1															14
	使用剥片						1																			1
磨製石器	磨製石斧																		2							2
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器													1												1
打製石器	打製石斧		1			3													1							5
	打製石斧未製品																									0
	円盤状石器					1						1														2
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器											1														1
	打製石鎌					1		1																		2
原石利用石器	磨石・敲石			2												1	4	2					1			10
	石皿・台石																									0
	石錘																									0
	加工礫																									0
	砥石																									0
その他	石核																									0
	調製剥片																									0
	剥片								5		1															6
	砕片								2																	2
	礫																1									1
	その他																									0
	不明石器																									0
計		0	1	2	2	5	11	1	19	0	4	2	0	1	0	1	5	2	3	0	2	0	1	0	0	62

表18　鳥井原遺跡出土石一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃						2		3																	5
	石鏃未製品																									0
	石匙						1																			1
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片																									0
	使用剥片																									0
磨製石器	磨製石斧																1		2			1				4
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器																									0
打製石器	打製石斧																									0
	打製石斧未製品																									0
	円盤状石器					1																				1
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌							1																		1
原石利用石器	磨石・敲石																									0
	石皿・台石																									0
	石錘																									0
	加工礫																									0
	砥石																									0
その他	石核																									0
	調製剥片																									0
	剥片		1			1			1	1																4
	砕片																									0
	礫		3	5																			1			9
	その他																									0
	不明石器																									0
計		0	4	0	0	0	3	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	25

表19　扇田遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器			2																1						3
	玉																									0
	玉素材																		1							1
剥片石器	石鏃				1		7		19		1															28
	石鏃未製品																									0
	石匙						1		1																	2
	石匙未製品						2																			2
	石錐						1																			1
	加工剥片				1	1	13		33			2	1							1	2					54
	使用剥片								34																	34
磨製石器	磨製石斧																		11			7			1	19
	磨製石斧未製品																		1							1
	局部磨製石斧	2	4																							6
	磨製石器																									0
打製石器	打製石斧	3	56			11	1					12	3						2							88
	打製石斧未製品	1	1	1								1													1	5
	円盤状石器		3																							3
	円盤状石器未製品			1																						1
	十字形石器																									0
	分銅形石器																									0
	打製石鎌																									0
原石利用石器	磨石・敲石			54													4	3								61
	石皿・台石	2	1	5												1		1								10
	石錘			1																						1
	加工礫	1																1								2
	砥石	1																4								5
その他	石核		1				5		68		4															78
	調製剥片																									0
	剥片	2	10	2	25		100	6	419	2	7	26	2	1	4			3	3		14	5			4	635
	砕片								18																	18
	礫		2	3	1			2	86		1														2	97
	その他																									0
	不明石器																									0
計		12	78	69	28	12	130	8	678	2	13	41	6	1	4	1	4	12	18	2	16	12	0	0	8	1155

表20　川辺西原遺跡出土石器一覧

		安山岩							黒曜石			片岩				砂岩					チャート	蛇紋岩	石英	玉石材	その他	計
		A	B	C	D	E	F	その他	A	B	その他	A	B	C	その他	A	B	C	D	その他						
玉類	特殊石器																									0
	玉																									0
	玉素材																									0
剥片石器	石鏃																									0
	石鏃未製品																									0
	石匙																									0
	石匙未製品																									0
	石錐																									0
	加工剥片								10																	10
	使用剥片								10																	10
磨製石器	磨製石斧																					2				2
	磨製石斧未製品																									0
	局部磨製石斧																									0
	磨製石器													2												2
打製石器	打製石斧											6													1	7
	打製石斧未製品											1														1
	円盤状石器																									0
	円盤状石器未製品																									0
	十字形石器																									0
	分銅形石器											1														1
	打製石鎌											1														1
原石利用石器	磨石・敲石			5								2					1			1					1	10
	石皿・台石	1																								1
	石錘																									0
	加工礫																									0
	砥石			1																						1
その他	石核								3																	3
	調製剥片																									0
	剥片						6		60	1	1	24	1		1				1		1	1				97
	砕片								2		1	2														5
	礫	2	3	1	1				2			7	3			2	1			3	2	1	1		2	31
	その他																									0
	不明石器																									0
計		3	3	7	1	0	6	0	87	1	2	44	4	2	1	2	2	0	1	4	3	4	1	0	4	182